

P21221.P04

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant :M. SHIRAYANAGI

Serial No. :Not Yet Assigned

Filed :Concurrently Herewith

For :ASPHERICAL SPECTACLE LENS



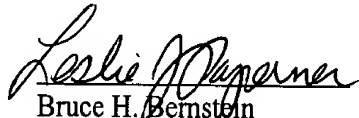
CLAIM OF PRIORITY

Commissioner of Patents and Trademarks
Washington, D.C. 20231

Sir:

Applicant hereby claims the right of priority granted pursuant to 35 U.S.C. 119 based upon Japanese Application No. 2000-317241, filed October 17, 2000. As required by 37 C.F.R. 1.55, a certified copy of the Japanese application is being submitted herewith.

Respectfully submitted,
M. SHIRAYANAGI


Bruce H. Bernstein
Reg. No. 29,027
Reg. No. 33,329

October 16, 2001
GREENBLUM & BERNSTEIN, P.L.C.
1941 Roland Clarke Place
Reston, VA 20191
(703) 716-1191

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

JCS79 U.S. PTO
09/977703
10/15/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application: 2000年10月17日

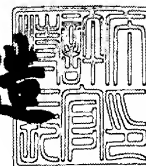
出 願 番 号
Application Number: 特願2000-317241

出 願 人
Applicant(s): 旭光学工業株式会社

2001年 7月 5日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3063019

【書類名】 特許願

【整理番号】 JP00853

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G02C 7/02

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都板橋区前野町 2 丁目 3 6 番 9 号 旭光学工業株式
 会社内

 【氏名】 白柳 守康

【特許出願人】

 【識別番号】 000000527

 【氏名又は名称】 旭光学工業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100098235

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 金井 英幸

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 062606

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9812486

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 非球面眼鏡レンズ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 外面、内面の一对の屈折面を有し、少なくとも一方の屈折面が非球面であり、プリズム処方がなされた単焦点の非球面眼鏡レンズにおいて、

前記非球面を非回転対称非球面とすることにより、プリズム処方を加えることにより発生する収差を補正したことを特徴とする非球面眼鏡レンズ。

【請求項 2】 眼鏡フレームへの取付時に使用者の瞳位置に一致させる位置を枠入れ基準点とし、該枠入れ基準点に立てた前記非回転対称非球面の法線を含む平面と前記非回転対称非球面との交線の曲率が、プリズム頂角側よりもプリズム基底側で大きいことを特徴とする請求項 1 に記載の非球面眼鏡レンズ。

【請求項 3】 眼鏡フレームへの取付時に使用者の瞳位置に一致させる位置を枠入れ基準点とし、該枠入れ基準点に立てた前記非回転対称非球面の法線を z 軸、該 z 軸に直交する面内でプリズム頂角方向に y 軸、左手座標系で y 軸および z 軸に直交する方向を x 軸とし、前記 z 軸を含み x 軸と角度 θ [degree] をなす平面と前記非回転対称非球面との交線の前記 z 軸からの高さ h [mm] における曲率を $C(h, \theta)$ として表すとき、 $10 \leq h \leq 20$ 、 $30 \leq \theta \leq 150$ を満たす範囲内で、以下の条件(1)、

$$C(h, \theta + 180) - C(h, \theta) > 0 \quad \dots(1)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 に記載の非球面眼鏡レンズ。

【請求項 4】 前記外面が球面、内面が非回転対称非球面であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の非球面眼鏡レンズ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、視力補正用の単焦点の非球面眼鏡レンズに関し、特に斜位矯正用のプリズム処方が含まれる眼鏡レンズに関する。

【0002】

【従来の技術】

斜位(目を休めた状態の時に視線がずれる症状)を矯正するための眼鏡レンズには、プリズム処方が含まれる。プリズム処方を含む眼鏡レンズは、レンズの外面(物体側の面)と内面(眼側の面)とを相対的に傾けることによりプリズム効果を生じさせる。

【0003】

図75、図76は、従来のプリズム処方を含む眼鏡レンズの一例を示し、図75は断面図、図76は外面側から見た正面図である。図示した眼鏡レンズ10は、外面11が回転対称な非球面、内面12が球面である。眼鏡フレームへの取付時に使用者の眼14の瞳位置に一致する位置が枠入れ基準点13である。この枠入れ基準点13に立てた非球面である外面11の法線をz軸とし、z軸が外面11と交差する点を含み、z軸に対して垂直な平面内で互いに直交するx軸とy軸とを設定する。プリズムパワーがない方向、y軸はプリズム頂角方向、x軸は左手座標系でy軸およびz軸に直交する方向である。外面11は、x-y平面に対して傾きなく、内面12がx-y平面に対して傾いている。これにより、眼鏡レンズ10はy軸のマイナスの方向に基底をもつプリズム屈折力を有する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述した従来のプリズム処方を含む眼鏡レンズ10は、プリズム処方を含まない眼鏡レンズとして設計された外面11、内面12の形状をそのまま流用し、これらを相対的に傾けることによりプリズム効果を生じさせているため、斜位の矯正はできるものの、プリズム処方により発生した収差については考慮されていないという問題がある。

【0005】

この発明は、上述した従来技術の問題点に鑑みてなされたものであり、斜位矯正のためのプリズム処方を含む場合に、良好な光学性能を得ることができる非球面眼鏡レンズの提供を目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

この発明にかかる非球面眼鏡レンズは、上記の目的を達成させるため、プリズ

ム処方を加えることにより発生する収差を、非回転対称非球面により補正したことを特徴とする。プリズム処方を加えることにより発生する収差は非回転対称であり、これを回転対称な面により補正することは困難である。そこで、上記のように外面、内面の少なくとも一方を非球面とし、さらに、その非球面を非回転対称な面とすることにより、プリズム処方を加えることにより発生した収差を補正することができる。

【0007】

具体的には、枠入れ基準点に立てた非回転対称非球面の法線を含む平面と非回転対称非球面との交線の曲率を、プリズム頂角側よりもプリズム基底側で大きくすることが収差を良好に補正する上では望ましい。枠入れ基準点は、眼鏡フレームへの取付時に使用者の瞳位置に一致させる位置であり、プリズム処方を含む場合には、プリズム屈折力測定基準点に一致する。

【0008】

より詳細には、枠入れ基準点に立てた非回転対称非球面の法線を z 軸、この z 軸に直交する面内でプリズム頂角の方向を y 軸、左手座標系で y 軸および z 軸に直交する方向を x 軸とし、 z 軸を含み x 軸と角度 θ [degree]をなす平面と非回転対称非球面との交線の z 軸からの高さ h [mm]における曲率を $C(h, \theta)$ として表すとき、 $10 \leq h \leq 20$ 、 $30 \leq \theta \leq 150$ を満たす範囲内で、以下の条件(1)

$$C(h, \theta + 180) - C(h, \theta) > 0 \quad \cdots (1)$$

を満たすことが望ましい。

【0009】

また、様々な球面屈折力、円柱屈折力、乱視軸方向、プリズム屈折力、プリズム基底方向の組み合わせに対応できるよう、外面を球面、内面を非球面とし、外面が予め成形された半完成の被加工レンズ(セミ品、セミフィニッシュレンズ)をストックしておき、仕様に基づいて内面を加工するのが好ましい。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、この発明にかかる非球面眼鏡レンズの実施形態を説明する。まず、図1

、図2に基づいて概要を説明した後、具体的な設計例を示す。図1、図2は、実施形態の非球面眼鏡レンズ1を示し、図1は側面断面図、図2は外面側から見た正面図である。

【0011】

図示した非球面眼鏡レンズ1は、外面2が球面、内面3が非回転対称な非球面である。眼鏡フレームへの取付時に使用者の眼5の瞳位置に一致する位置が枠入れ基準点4である。この枠入れ基準点4に立てた内面3の法線をz軸、z軸が内面3と交差する点を含みz軸に対して垂直な平面内でプリズム頂角の方向をy軸、左手座標系でy軸およびz軸に直交する方向をx軸とする。内面3は、x-y平面に対して傾きなく、外面2がx-y平面に対して傾いている。実施形態では、x軸が眼鏡装用時の水平方向、y軸が垂直方向に一致するものとする。したがって、非球面眼鏡レンズ1は、垂直方向であるy軸方向に沿って下側に基底、上側に頂点を持つプリズムを有し、ベースダウンのプリズム屈折力を有することとなる。

【0012】

実施形態の非球面眼鏡レンズ1は、プリズム処方を加えることにより発生する収差を、内面3の非回転対称非球面により補正している。具体的には、枠入れ基準点4に立てた内面3の法線、すなわちz軸を含む平面と内面3との交線7の曲率を、図中上側となるプリズム頂角側よりも図中下側となるプリズム基底側で大きくすることにより、収差を補正している。

【0013】

ここで、図2に示すように、z軸を含みx軸に対して角度 θ [degree]をなす平面と内面3との交線7のz軸からの高さ h [mm]の点を極座標 (h, θ) とし、この点における交線7に沿う方向の曲率を $C(h, \theta)$ として表す。角度 θ は、図中右側となるx軸のプラス方向を 0° とし、プリズム頂角側(y軸のプラス方向)に向けて、すなわち図中の反時計回りに増加するものとする。

【0014】

実施形態の非球面眼鏡レンズ1は、上記の定義において、 $10 \leq h \leq 20$ 、 $0 \leq \theta \leq 150$ を満たす範囲、すなわち図2で示されるハッチングの領域R内で

、以下の条件(1)、

$$C(h, \theta + 180) - C(h, \theta) > 0 \quad \dots (1)$$

を満たしている。

【0015】

$C(h, \theta)$ は、範囲R内の曲率、すなわちプリズム頂角側の曲率であり、 $C(h, \theta + 180)$ は原点を挟んで対称位置の曲率、すなわちプリズム基底側の曲率である。条件(1)は、範囲R内のある座標での曲率が、原点を挟んで点対称となる座標での曲率より小さいことを意味している。原点を挟んで点対称となる一对の座標点においては、眼鏡レンズが乱視矯正用の円柱屈折力を含む場合にも、その影響は等しくなるため、条件(1)で示されるような曲率の大小関係は、円柱屈折力に影響されずに定めることができる。

【0016】

条件(1)を満たすようプリズムの頂点側と基底側との曲率を定めると、プリズム処方を付加することにより発生した収差を良好に補正することができる。

【0017】

次に、上記実施形態の非球面眼鏡レンズ1について6つの実施例を説明する。ここでは、外面を球面、内面を非回転対称非球面とした実施例と、従来例と同様に外面を回転対称非球面、内面を球面またはトーリック面として両面を相対的に傾けることによりプリズム処方を加えた比較例とをそれぞれ比較して説明する。なお、以下の実施例および比較例においては全て屈折率を1.67としている。

【0018】

【実施例1】

実施例1の非球面眼鏡レンズは、斜位矯正用のプリズム処方を含み、乱視矯正用の円柱屈折力処方を含まないレンズであり、その仕様は表1に示される。表中のSPHは、頂点球面屈折力を示す。プリズム屈折力の単位は Δ [Prism Diopter]であり、プリズムは、基底が $\theta = 270^\circ$ の方向、頂角が $\theta = 90^\circ$ の方向、すなわち、ベースダウンのプリズム屈折力を有する。また、外面は表1に示す面屈折力を有する球面、内面は図3に示すような曲率分布を有する非回転対称非球面である。図3の表は、枠入れ基準点4からの距離h [mm]、交線7のx軸に対する角度

θ [degree] で示される極座標 (h , θ) における交線 7 方向の内面の曲率 $C(h, \theta)$ の分布を表している。

【 0 0 1 9 】

【表 1】

S P H	- 4 . 0 0 [Diopter]
プリズム屈折力	3 Δ ベースダウン
外面 球面	0 . 9 0 [Diopter]
内面 非回転対称非球面	
中心厚	1 . 1 [mm]

【 0 0 2 0 】

図 4 は、角度 θ を固定し、枠入れ基準点 4 からの距離 h の変化に対して内面の曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを、 $\theta = 0^\circ, 45^\circ, 90^\circ, 135^\circ, 180^\circ, 225^\circ, 270^\circ, 315^\circ$ のそれぞれについて示したグラフである。実線で示される $\theta = 0^\circ$ と 180° との曲線は重なっており、これを境に曲率が小さい側(左側)に向けて順に $45^\circ, 135^\circ$ が重なった曲線、 90° の曲線が配列し、曲率が大きい側(右側)に向けて順に、 $225^\circ, 315^\circ$ が重なった曲線、 270° の曲線が配列している。

【 0 0 2 1 】

また、図 5 は、距離 h を固定し、 x 軸からの角度 θ の変化に対して内面の曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを、 $h = 10\text{mm}, 15\text{mm}, 20\text{mm}, 25\text{mm}$ のそれぞれについて示したグラフである。プリズム処方による収差を補正するため、曲率 $C(h, \theta)$ は、いずれの距離 h においても、 $\theta = 90^\circ$ で最小、 $\theta = 270^\circ$ で最大となっている。また、距離 h が大きいほど曲率は小さくなっている。

【 0 0 2 2 】

さらに、図 6 は、距離 h を固定し、 x 軸からの角度 θ の変化に対して条件(1)の左辺 $C(h, \theta + 180) - C(h, \theta)$ の値がどのように変化するかを、 $h = 10\text{mm}, 15\text{mm}, 20\text{mm}, 25\text{mm}$ のそれぞれについて示したグラフである。例えば、 $h = 0$ の曲線上の $\theta = 90^\circ$ の点は、 $C(10, 270) - C(10, 90)$ の値を示している。図 3 から $C(10, 270) = 6.617.02$ 、 $C(10, 90) = 6.61$ がわかるので、 $h = 0$ の曲線上の $\theta = 90^\circ$ での値は 0.41 となる。 $h = 10\text{mm}, 15\text{mm}, 20\text{mm}, 25\text{mm}$ のいずれの値においても、 $30 \leq \theta \leq 150$ の範

図では $(h, \theta + 180) - C(h, \theta)$ が正の値をとることは図 6 から明らかである。すなわち、実施例 1 の非球面眼鏡レンズは、条件 (1) を満足する。

【 0 0 2 3 】

図 7、図 8 は、実施例 1 の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図 7 が平均屈折力誤差、図 8 が非点収差を示す。グラフ中、平面座標はそれぞれ垂直方向、水平方向の視線を振る角度 [degree]、垂直座標は各収差の発生量 [Diopter] を示している。

【 0 0 2 4 】

表 2 は、実施例 1 と同一の S P H、プリズム屈折力を有する比較例 1 の仕様を示す。外面の曲率は、図 9 の表に示すように距離 h の変化に伴って変化する。図 1 0 は、図 9 の表をグラフ化したものである。回転対称であるため、角度 θ の違いによる変化はなく、全ての θ に対して同一の曲線となる。

【 0 0 2 5 】

【表 2】

S P H	- 4 . 0 0 [Diopter]
プリズム屈折力	3 Δベースダウン
外面	回転対称非球面
内面 球面	8 . 4 6 [Diopter]
中心厚	1 . 1 [mm]

【 0 0 2 6 】

図 1 1 は、比較例 1 の内面の曲率 $C(h, \theta)$ を図 3 と同一の形式で表わした表である。ただし、比較例 1 では内面は球面であるため、曲率の値は全ての座標において同一の値 8.46 をとる。また、図 1 2 は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ の変化を図 5 と同一の形式で表したグラフである。ここでも h 、 θ の変化に影響なく、曲率は一定の値 8.46 となる。したがって、条件 (1) の左辺の値は、比較例 1 では常に 0 となり、条件 (1) を満足しない。

【 0 0 2 7 】

図 1 3、図 1 4 は、比較例 1 の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図 1 3 が平均屈折力誤差、図 1 4 が非点収差を示す。図 7、図 8 と比較す

ると、両収差図共に比較例 1 では等高線の数が多く、実施例 1 より性能が劣ることが理解できる。すなわち、実施例 1 のように内面を非回転対称非球面としてプリズムの方向に応じて曲率差をつけることにより、比較例 1 のように単にプリズムを付加するために両面を相対的に傾けただけのレンズと比較して収差を良好に補正することができる。

【0028】

【実施例 2】

実施例 2 の非球面眼鏡レンズは、斜位矯正用のプリズム処方と乱視矯正用の円柱屈折力処方を含むレンズであり、その仕様は表 3 に示される。表中の CYL は円柱屈折力、AX は乱視軸方向を示す。乱視軸方向 AX は、円柱屈折力がない方向を示す角度であり、頂点屈折力は、この角度 AX で SPH、これと直交する角度で $SPH + CLYCYL$ となる。プリズムは、実施例 1 と同様にベースダウンのプリズム屈折力を有する。また、外面は表 3 に示す面屈折力を有する球面、内面は図 15 に示すような曲率分布を有する非回転対称非球面である。この非回転対称非球面は、プリズム処方と円柱屈折力処方との 2 つの非回転対称成分を含んでおり、そのため外面を球面とすることができる。

【0029】

【表 3】

SPH	-4.00 [Diopter]		
CYL	-4.00 [Diopter]	AX	0°
プリズム屈折力	3△ベースダウン		
外面 球面	0.90 [Diopter]		
内面	非回転対称非球面		
中心厚	1.1 [mm]		

【0030】

図 16 は、枠入れ基準点 4 からの距離 h の変化に対して内面の曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。最も左側の実線で示す曲線は、 $\theta = 0^\circ$ と 180° とが重なって示される曲線であり、これより右側に向けて順に、 45° と 135° とが重なった曲線、 225° と 315° が重なった曲線、 90° の曲線、 270°

° の曲線が並んでいる。また、図 17 は、x 軸からの角度 θ の変化に対して曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。

【0031】

図 16, 図 17 に示されるように、全体的には円柱屈折力の影響で $0^\circ, 180^\circ$ 方向の曲率が小さく、 $90^\circ, 270^\circ$ 方向の曲率が多いが、プリズム処方による収差を補正するために、プリズム頂角側となる $45^\circ, 90^\circ, 135^\circ$ の曲率よりも、それぞれに対応するプリズム基底側の $225^\circ, 270^\circ, 315^\circ$ の曲率の方が大きく設定されている。

【0032】

図 18 は、x 軸からの角度 θ の変化に対して条件(1)の左辺 $C(h, \theta + 180) - C(h, \theta)$ の値がどのように変化するかを示すグラフである。 $h = 10\text{mm}, 15\text{mm}, 20\text{mm}, 25\text{mm}$ のいずれの値においても、 $30 \leq \theta \leq 150$ の範囲では $(h, \theta + 180) - C(h, \theta)$ が正の値をとることは明らかである。すなわち、実施例 2 の非球面眼鏡レンズは、条件(1)を満足する。

【0033】

図 19, 図 20 は、実施例 2 の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図 19 が平均屈折力誤差、図 20 が非点収差を示す。

【0034】

表 4 は、実施例 2 と同一の SPH, CLY, AX, プリズム屈折力を有する比較例 2 の仕様を示す。外面の曲率は、図 21 の表に示すように距離 h の変化に伴って変化する。図 22 は、図 21 の表をグラフ化したものである。回転対称であるため、角度 θ の違いによる変化はなく、全ての θ に対して同一の曲線となる。

【0035】

【表 4】

SPH	-4.00 [Diopter]		
CYL	-4.00 [Diopter]	AX	0°
プリズム屈折力	3 Δ ベースダウン		
外面	回転対称非球面		
内面	トーリック面		

中心厚 1. 1 [mm]

【0 0 3 6】

図 2 3 は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ を図 1 5 と同一の形式で表わした表である。

また、図 2 4 は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ の変化を図 1 7 と同一の形式で表したグラフである。比較例 2 では内面はトーリック面であるため、曲率は θ の値に応じてほぼ正弦的に変化するが、プリズム頂角側と基底側とでの差はない。したがって、条件(1)の左辺の値は、比較例 2 では常に 0 となり、条件(1)を満足しない。

【0 0 3 7】

図 2 5, 図 2 6 は、比較例 2 の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図 2 5 が平均屈折力誤差、図 2 6 が非点収差を示す。図 1 9, 図 2 0 と比較すると、両収差図共に比較例 2 では等高線の数が多く、実施例 2 より性能が劣ることが理解できる。すなわち、円柱屈折力処方を含む場合にも、実施例 2 のように内面を非回転対称非球面としてプリズムの方向に応じて曲率差をつけることにより、比較例 2 のように単にプリズムを付加するために両面を相対的に傾けただけのレンズと比較して収差を良好に補正することができる。

【0 0 3 8】

【実施例 3】

実施例 3 の非球面眼鏡レンズは、斜位矯正用のプリズム処方を含み、乱視矯正用の円柱屈折力処方を含まないレンズであり、その仕様は表 5 に示される。プリズムは、実施例 1 と同様にベースダウンのプリズム屈折力を有する。また、外面は表 5 に示す面屈折力を有する球面、内面は図 2 7 に示すような曲率分布を有する非回転対称非球面である。

【0 0 3 9】

【表 5】

SPH	- 8. 0 0 [Diopter]
プリズム屈折力	3 Δベースダウン
外面 球面	0. 4 5 [Diopter]
内面	非回転対称非球面
中心厚	1. 1 [mm]

【0040】

図28は、枠入れ基準点4からの距離 h の変化に対して内面の曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。実線で示される $\theta=0^\circ$ と 180° との曲線は重なっており、これを境に曲率が小さい側(左側)に向けて順に 45° , 135° が重なった曲線、 90° の曲線が配列し、曲率が大きい側(右側)に向けて順に、 225° , 315° が重なった曲線、 270° の曲線が配列している。また、図29は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。

【0041】

図28, 図29に示されるように、プリズム処方による収差を補正するため、曲率 $C(h, \theta)$ は、いずれの距離 h においても、 $\theta=90^\circ$ で最小、 $\theta=270^\circ$ で最大となっている。また、距離 h が大きいほど曲率は小さくなっている。

【0042】

図30は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して条件(1)の左辺 $C(h, \theta+180) - C(h, \theta)$ の値がどのように変化するかを示すグラフである。 $h=10\text{mm}, 15\text{mm}, 20\text{mm}, 25\text{mm}$ のいずれの値においても、 $30 \leq \theta \leq 150$ の範囲では $(h, \theta+180) - C(h, \theta)$ が正の値をとることは明らかである。すなわち、実施例3の非球面眼鏡レンズは、条件(1)を満足する。

【0043】

図31, 図32は、実施例3の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図31が平均屈折力誤差、図32が非点収差を示す。

【0044】

表6は、実施例3と同一のSPH, プリズム屈折力を有する比較例3の仕様を示す。外面の曲率は、図33の表に示すように距離 h の変化に伴って変化する。図34は、図33の表をグラフ化したものである。回転対称であるため、角度 θ の違いによる変化はなく、全ての θ に対して同一の曲線となる。

【0045】

【表6】

SPH - 8.00 [Diopter]

プリズム屈折力 3△ベースダウン

外面 回転対称非球面

内面 球面 13.76 [Diopter]

中心厚 1.1 [mm]

【0046】

図35は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ を図27と同一の形式で表わした表である。ただし、比較例3では内面は球面であるため、曲率の値は全ての座標において同一の値13.76をとる。また、図36は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ の変化を図29と同一の形式で表したグラフである。ここでも h 、 θ の変化に影響なく、曲率は一定の値13.76となる。したがって、条件(1)の左辺の値は、比較例3では常に0となり、条件(1)を満足しない。

【0047】

図37、図38は、比較例3の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図37が平均屈折力誤差、図38が非点収差を示す。図31、図32と比較すると、比較例3では周辺部で大きな非点収差が発生しているのに対し、実施例3ではこれが良好に補正されていることがわかる。

【0048】

【実施例4】

実施例4の非球面眼鏡レンズは、斜位矯正用のプリズム処方と乱視矯正用の円柱屈折力処方を含むレンズであり、その仕様は表7に示される。プリズムは、実施例1と同様にベースダウンのプリズム屈折力を有する。また、外面は表7に示す面屈折力を有する球面、内面は図39に示すような曲率分布を有する非回転対称非球面である。この非回転対称非球面は、プリズム処方と円柱屈折力処方との2つの非回転対称成分を含んでいる。

【0049】

【表7】

SPH	-8.00 [Diopter]	
CYL	-4.00 [Diopter]	AX 90°
プリズム屈折力	3△ベースダウン	

外面 球面 0.45 [Diopter]

内面 非回転対称非球面

中心厚 1.1 [mm]

【0050】

図40は、枠入れ基準点4からの距離 h の変化に対して内面の曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。最も右側の実線で示す曲線は、 $\theta=0^\circ$ と 180° とが重なって示される曲線であり、これより左側に向けて順に、 25° と 315° が重なった曲線、 45° と 135° とが重なった曲線、 270° の曲線、 90° の曲線が並んでいる。また、図41は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。

【0051】

図40、図41に示されるように、全体的には円柱屈折力の影響で 0° 、 180° 方向の曲率が大きく、 90° 、 270° 方向の曲率が小さいが、プリズム処方による収差を補正するために、プリズム頂角側となる 45° 、 90° 、 135° の曲率よりも、それぞれに対応するプリズム基底側の 225° 、 270° 、 315° の曲率の方が大きく設定されている。

【0052】

図42は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して条件(1)の左辺 $C(h, \theta+180) - C(h, \theta)$ の値がどのように変化するかを示すグラフである。 $h=10\text{mm}$ 、 15mm 、 20mm 、 25mm のいずれの値においても、 $30 \leq \theta \leq 150$ の範囲では $(h, \theta+180) - C(h, \theta)$ が正の値をとることは明らかである。すなわち、実施例4の非球面眼鏡レンズは、条件(1)を満足する。

【0053】

図43、図44は、実施例4の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図43が平均屈折力誤差、図44が非点収差を示す。

【0054】

表8は、実施例4と同一のSPH, CLYCYL, AX, プリズム屈折力を有する比較例4の仕様を示す。外面の曲率は、図45の表に示すように距離 h の変化に伴って変化する。図46は、図45の表をグラフ化したものである。回転対

称であるため、角度 θ の違いによる変化はなく、全ての θ に対して同一の曲線となる。

【0055】

【表8】

SPH	-8.00 [Diopter]	
CYL	-4.00 [Diopter]	AX 90°
プリズム屈折力	3△ベースダウン	
外面	回転対称非球面	
内面	トーリック面	
中心厚	1.1 [mm]	

【0056】

図47は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ を図39と同一の形式で表わした表である。また、図48は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ の変化を図41と同一の形式で表したグラフである。比較例4では内面はトーリック面であるため、曲率は θ の値に応じてほぼ正弦的に変化するが、プリズム頂角側と基底側とでの差はない。したがって、条件(1)の左辺の値は、比較例4では常に0となり、条件(1)を満足しない。

【0057】

図49、図50は、比較例2の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図25が平均屈折力誤差、図26が非点収差を示す。図43、図44と比較すると、両収差図共に比較例4では等高線の数が多く、実施例4より性能が劣ることが理解できる。すなわち、実施例4のように内面を非回転対称非球面としてプリズムの方向に応じて曲率差をつけることにより、比較例4のように単にプリズムを付加するために両面を相対的に傾けただけのレンズと比較して収差を良好に補正することができる。

【0058】

【実施例5】

実施例5の非球面眼鏡レンズは、斜位矯正用のプリズム処方を含み、乱視矯正用の円柱屈折力処方を含まないレンズであり、その仕様は表9に示される。プリズムは、実施例1と同様にベースダウンのプリズム屈折力を有する。また、外面

は表 9 に示す面屈折力を有する球面、内面は図 5 1 に示すような曲率分布を有する非回転対称非球面である。

【0 0 5 9】

【表 9】

S P H + 4 . 0 0 [Diopter]

プリズム屈折力 3 △ベースダウン

外面 球面 4 . 6 3 [Diopter]

内面 非回転対称非球面

中心厚 5 . 3 [mm]

【0 0 6 0】

図 5 2 は、枠入れ基準点 4 からの距離 h の変化に対して内面の曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。実線で示される $\theta = 0^\circ$ と 180° との曲線は重なっており、これを境に曲率が小さい側(左側)に向けて順に 45° , 135° が重なった曲線、 90° の曲線が配列し、曲率が大きい側(右側)に向けて順に、 225° , 315° が重なった曲線、 270° の曲線が配列している。また、図 5 3 は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。

【0 0 6 1】

図 5 2, 図 5 3 に示されるように、プリズム処方による収差を補正するため、曲率 $C(h, \theta)$ は、いずれの距離 h においても、 $\theta = 90^\circ$ で最小、 $\theta = 270^\circ$ で最大となっている。また、距離 h が大きいほど曲率は大きくなっている。

【0 0 6 2】

図 5 4 は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して条件(1)の左辺 $C(h, \theta + 180) - C(h, \theta)$ の値がどのように変化するを示すグラフである。 $h = 10\text{mm}, 15\text{mm}, 20\text{mm}, 25\text{mm}$ のいずれの値においても、 $30 \leq \theta \leq 150$ の範囲では $(h, \theta + 180) - C(h, \theta)$ が正の値をとることは明らかである。すなわち、実施例 5 の非球面眼鏡レンズは、条件(1)を満足する。

【0 0 6 3】

図 5 5, 図 5 6 は、実施例 5 の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフで

あり、図 5 5 が平均屈折力誤差、図 5 6 が非点収差を示す。

【0064】

表 1 0 は、実施例 5 と同一の S P H、プリズム屈折力を有する比較例 5 の仕様を示す。外面の曲率は、図 5 7 の表に示すように距離 h の変化に伴って変化する。図 5 8 は、図 5 7 の表をグラフ化したものである。回転対称であるため、角度 θ の違いによる変化はなく、全ての θ に対して同一の曲線となる。

【0065】

【表 1 0】

S P H	+ 4 . 0 0 [Diopter]
プリズム屈折力	3 Δ ベースダウン
外面	回転対称非球面
内面 球面	1 . 2 6 [Diopter]
中心厚	5 . 3 [mm]

【0066】

図 5 9 は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ を図 5 1 と同一の形式で表わした表である。ただし、比較例 5 では内面は球面であるため、曲率の値は全ての座標において同一の値 1.26 をとる。また、図 6 0 は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ の変化を図 5 3 と同一の形式で表したグラフである。ここでも h 、 θ の変化に影響なく、曲率は一定の値 1.26 となる。したがって、条件 (1) の左辺の値は、比較例 5 では常に 0 となり、条件 (1) を満足しない。

【0067】

図 6 1、図 6 2 は、比較例 5 の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図 6 1 が平均屈折力誤差、図 6 2 が非点収差を示す。図 5 5、図 5 6 と比較すると、両収差図共に比較例 5 では等高線の数が多く、実施例 5 より性能が劣ることが理解できる。実施例 5 では両収差共に良好に補正されている。

【0068】

【実施例 6】

実施例 6 の非球面眼鏡レンズは、斜位矯正用のプリズム処方と乱視矯正用の円柱屈折力処方を含むレンズであり、その仕様は表 1 1 に示される。プリズムは、

実施例 1 と同様にベースダウンのプリズム屈折力を有する。また、外面は表 1 1 に示す面屈折力を有する球面、内面は図 1 5 に示すような曲率分布を有する非回転対称非球面である。この非回転対称非球面は、プリズム処方と円柱屈折力処方との 2 つの非回転対称成分を含んでおり、そのため外面を球面とすることができ

【0069】

【表 1 1】

SPH	+4.00 [Diopter]	
CYL	-4.00 [Diopter]	AX 45°
プリズム屈折力	3△ベースダウン	
外面 球面	0.45 [Diopter]	
内面	非回転対称非球面	
中心厚	5.3 [mm]	

【0070】

図 6 3 は、枠入れ基準点 4 からの距離 h の変化に対して内面の曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。実線で示される $\theta=0^\circ$ と 180° との曲線は重なっており、これを境に曲率が小さい側(左側)に向けて順に 90° の曲線、 225° の曲線、 45° の曲線が配列し、曲率が大きい側(右側)に向けて順に、 270° の曲線、 135° の曲線、 315° の曲線が配列している。また、図 6 5 は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して曲率 $C(h, \theta)$ がどのように変化するかを示したグラフである。

【0071】

図 6 4、図 6 5 に示されるように、全体的には円柱屈折力の影響で 45° 、 225° 方向の曲率が小さく、 135° 、 315° 方向の曲率が大きい、プリズム処方による収差を補正するために、プリズム頂角側となる 45° 、 90° 、 135° の曲率よりも、それぞれに対応するプリズム基底側の 225° 、 270° 、 315° の曲率の方が大きく設定されている。

【0072】

図 6 6 は、 x 軸からの角度 θ の変化に対して条件(1)の左辺 $C(h, \theta+180) - C$

(h, θ)の値がどのように変化するかを示すグラフである。 $h=10\text{mm}, 15\text{mm}, 20\text{mm}, 25\text{mm}$ のいずれの値においても、 $30 \leq \theta \leq 150$ の範囲では $(h, \theta+180)-C(h, \theta)$ が正の値をとることは明らかである。すなわち、実施例6の非球面眼鏡レンズは、条件(1)を満足する。

【0073】

図67、図68は、実施例6の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフであり、図67が平均屈折力誤差、図68が非点収差を示す。

【0074】

表12は、実施例6と同一のSPH, CLYCYL, AX, プリズム屈折力を有する比較例6の仕様を示す。外面の曲率は、図69の表に示すように距離 h の変化に伴って変化する。図70は、図69の表をグラフ化したものである。回転対称であるため、角度 θ の違いによる変化はなく、全ての θ に対して同一の曲線となる。

【0075】

【表12】

SPH	+4.00 [Diopter]	
CYL	-4.00 [Diopter]	AX 45°
プリズム屈折力	3△ベースダウン	
外面	回転対称非球面	
内面	トーリック面	
中心厚	5.3 [mm]	

【0076】

図71は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ を図63と同一の形式で表わした表である。また、図72は、内面の曲率 $C(h, \theta)$ の変化を図65と同一の形式で表したグラフである。比較例6では内面はトーリック面であるため、曲率は θ の値に応じてほぼ正弦的に変化するが、プリズム頂角側と基底側とでの差はない。したがって、条件(1)の左辺の値は、比較例6では常に0となり、条件(1)を満足しない。

【0077】

図73、図74は、比較例6の非球面眼鏡レンズの性能を示す三次元グラフで

あり、図 7 3 が平均屈折力誤差、図 7 4 が非点収差を示す。図 6 7, 図 6 8 と比較すると、両収差図共に比較例 6 では等高線の数が多く、実施例 6 より性能が劣ることが理解できる。すなわち、実施例 6 のように内面を非回転対称非球面としてプリズムの方向に応じて曲率差をつけることにより、比較例 6 のように単にプリズムを付加するために両面を相対的に傾けただけのレンズと比較して収差を良好に補正することができる。

【0 0 7 8】

【発明の効果】

以上説明してきたように、この発明によれば、眼鏡レンズが斜位矯正用のプリズム処方を含む場合にも、内面を非回転対称な非球面とすることにより、プリズム処方を加えたことによる収差を補正することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 実施形態の非球面眼鏡レンズの側面断面図。

【図 2】 実施形態の非球面眼鏡レンズの外側から見た正面図。

【図 3】 実施例 1 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 4】 実施例 1 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 5】 実施例 1 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 6】 実施例 1 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する条件(1)の左辺の値の変化を示すグラフ。

【図 7】 実施例 1 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 8】 実施例 1 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 9】 比較例 1 の非球面眼鏡レンズの外側の曲率分布を示す表。

【図 1 0】 比較例 1 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する外側の曲率の変化を示すグラフ。

【図 1 1】 比較例 1 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 1 2】 比較例 1 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する

内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 1 3】 比較例 1 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 1 4】 比較例 1 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 1 5】 実施例 2 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 1 6】 実施例 2 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 1 7】 実施例 2 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 1 8】 実施例 2 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する条件 (1) の左辺の値の変化を示すグラフ。

【図 1 9】 実施例 2 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 2 0】 実施例 2 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 2 1】 比較例 2 の非球面眼鏡レンズの外面の曲率分布を示す表。

【図 2 2】 比較例 2 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する外面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 2 3】 比較例 2 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 2 4】 比較例 2 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 2 5】 比較例 2 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 2 6】 比較例 2 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 2 7】 実施例 3 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 2 8】 実施例 3 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 2 9】 実施例 3 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 3 0】 実施例 3 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する

条件(1)の左辺の値の変化を示すグラフ。

【図 3 1】 実施例 3 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 3 2】 実施例 3 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 3 3】 比較例 3 の非球面眼鏡レンズの外面の曲率分布を示す表。

【図 3 4】 比較例 3 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する外面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 3 5】 比較例 3 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 3 6】 比較例 3 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 3 7】 比較例 3 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 3 8】 比較例 3 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 3 9】 実施例 4 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 4 0】 実施例 4 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 4 1】 実施例 4 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 4 2】 実施例 4 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する条件(1)の左辺の値の変化を示すグラフ。

【図 4 3】 実施例 4 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 4 4】 実施例 4 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 4 5】 比較例 4 の非球面眼鏡レンズの外面の曲率分布を示す表。

【図 4 6】 比較例 4 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する外面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 4 7】 比較例 4 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 4 8】 比較例 4 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 4 9】 比較例 4 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 5 0】 比較例 4 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 5 1】 実施例 5 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 5 2】 実施例 5 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 5 3】 実施例 5 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 5 4】 実施例 5 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する条件(1)の左辺の値の変化を示すグラフ。

【図 5 5】 実施例 5 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 5 6】 実施例 5 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 5 7】 比較例 5 の非球面眼鏡レンズの外面の曲率分布を示す表。

【図 5 8】 比較例 5 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する外面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 5 9】 比較例 5 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 6 0】 比較例 5 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 6 1】 比較例 5 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 6 2】 比較例 5 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 6 3】 実施例 6 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 6 4】 実施例 6 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 6 5】 実施例 6 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 6 6】 実施例 6 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する条件(1)の左辺の値の変化を示すグラフ。

【図 6 7】 実施例 6 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 6 8】 実施例 6 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す二次元グラフ。

【図 6 9】 比較例 6 の非球面眼鏡レンズの外面の曲率分布を示す表。

【図 7 0】 比較例 6 の非球面眼鏡レンズの枠入れ基準点からの距離の変化に対する外面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 7 1】 比較例 6 の非球面眼鏡レンズの内面の曲率分布を示す表。

【図 7 2】 比較例 6 の非球面眼鏡レンズの x 軸からの角度 θ の変化に対する内面の曲率の変化を示すグラフ。

【図 7 3】 比較例 6 の非球面眼鏡レンズの平均屈折力誤差を示す三次元グラフ。

【図 7 4】 比較例 6 の非球面眼鏡レンズの非点収差を示す三次元グラフ。

【図 7 5】 従来の非球面眼鏡レンズの側面断面図。

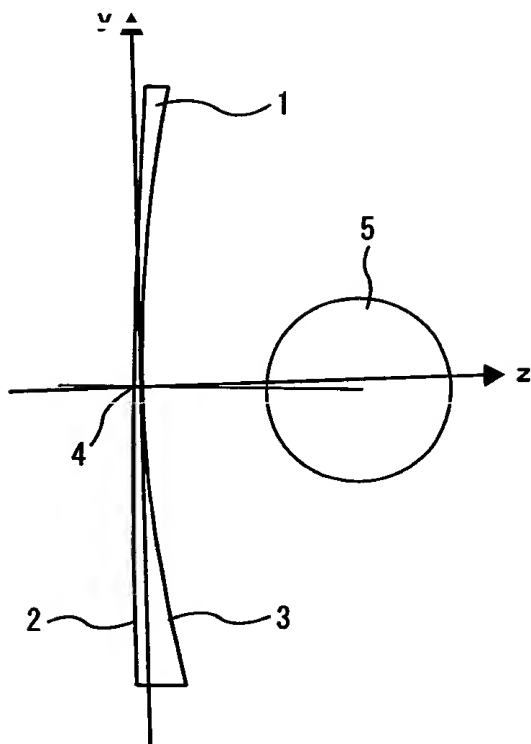
【図 7 6】 従来の非球面眼鏡レンズの外面から見た正面図。

【符号の説明】

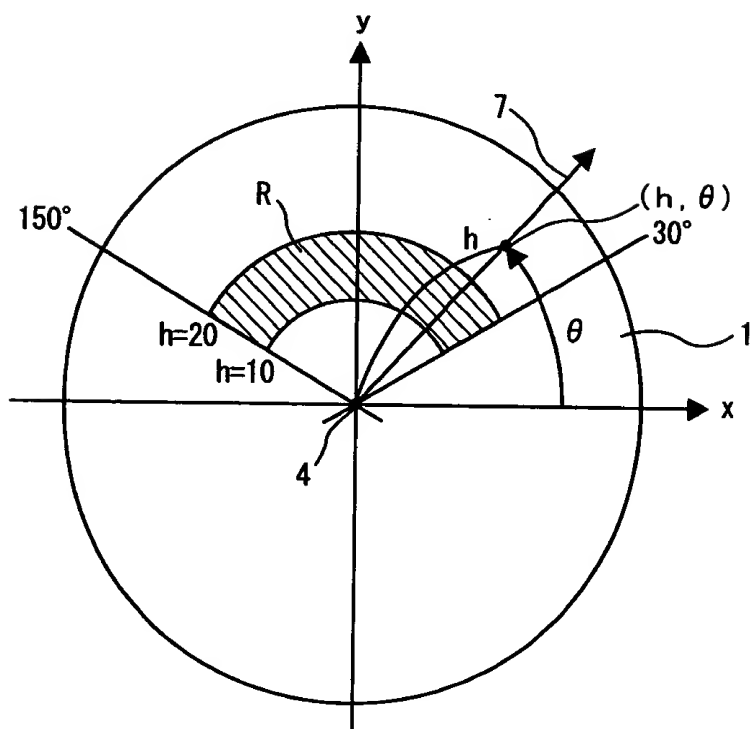
- 1 非球面眼鏡レンズ
- 2 外面
- 3 内面
- 4 枠入れ基準点

【書類名】 図面

【図1】



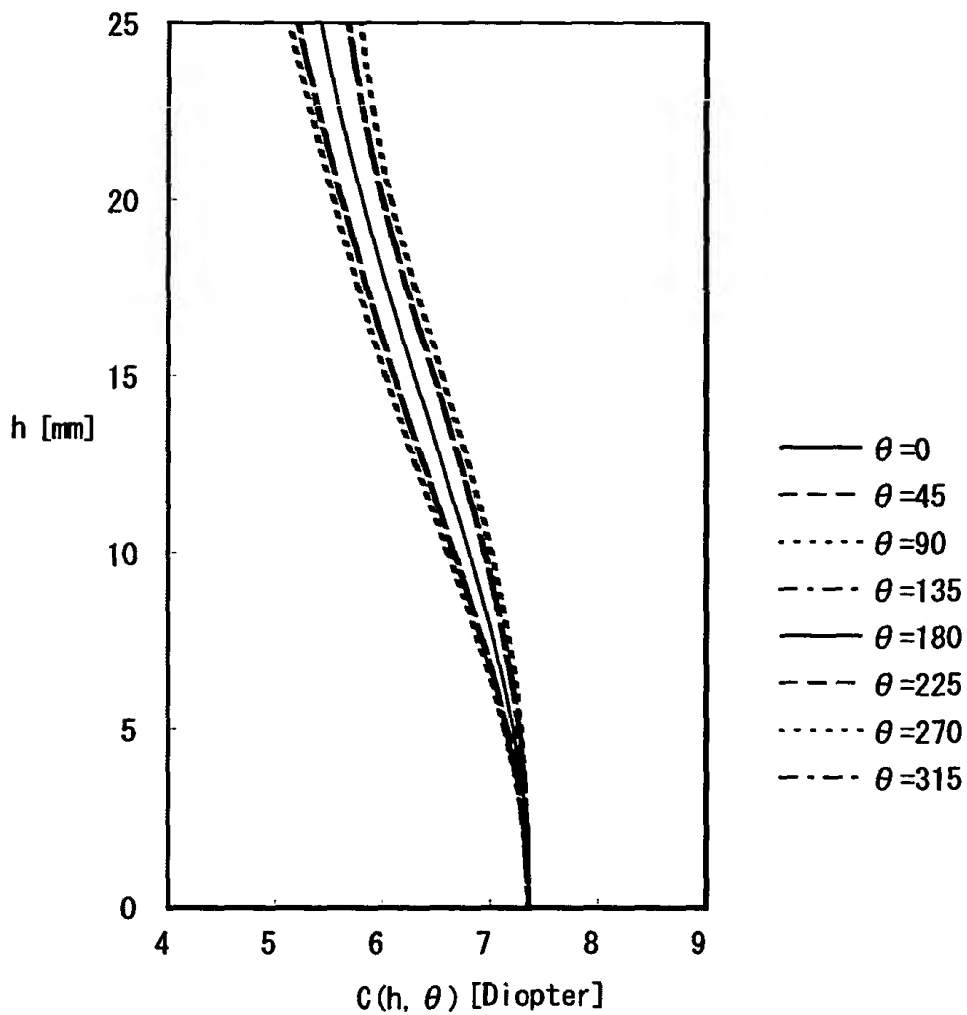
【図2】



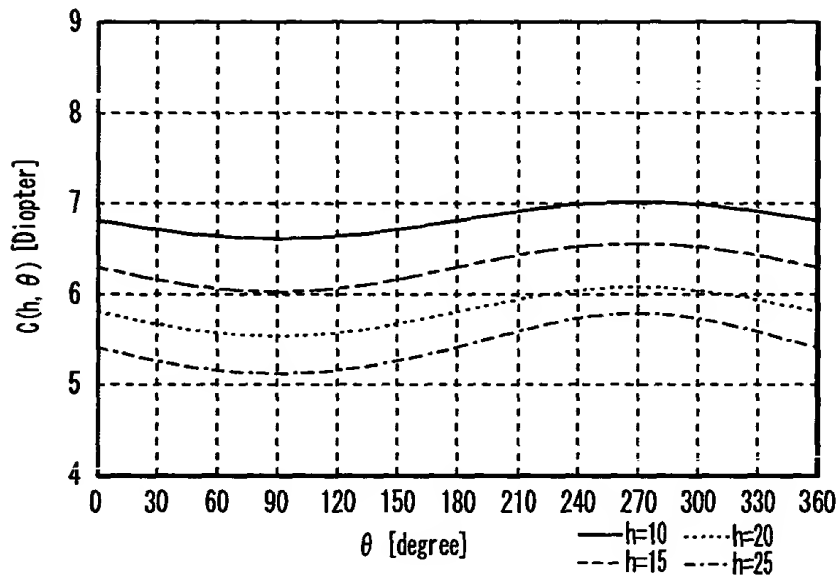
【図3】

		C(h, θ)							
h \ θ	0	45	90	135	180	225	270	315	
0.0	7.36	7.36	7.36	7.36	7.36	7.36	7.36	7.36	
5.0	7.21	7.16	7.14	7.16	7.21	7.26	7.28	7.26	
10.0	6.81	6.67	6.61	6.67	6.81	6.96	7.02	6.96	
15.0	6.30	6.11	6.03	6.11	6.30	6.48	6.56	6.48	
20.0	5.81	5.62	5.54	5.62	5.81	6.00	6.08	6.00	
25.0	5.42	5.20	5.12	5.20	5.42	5.67	5.79	5.67	

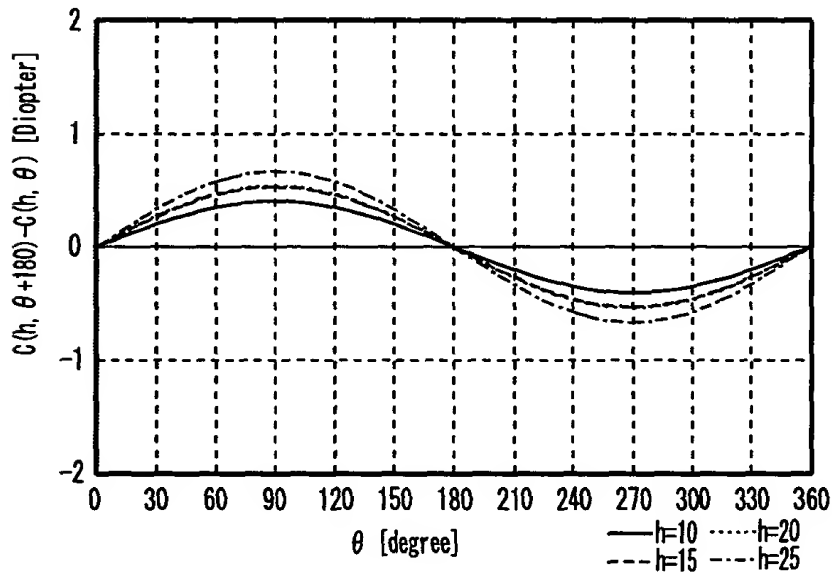
【図4】



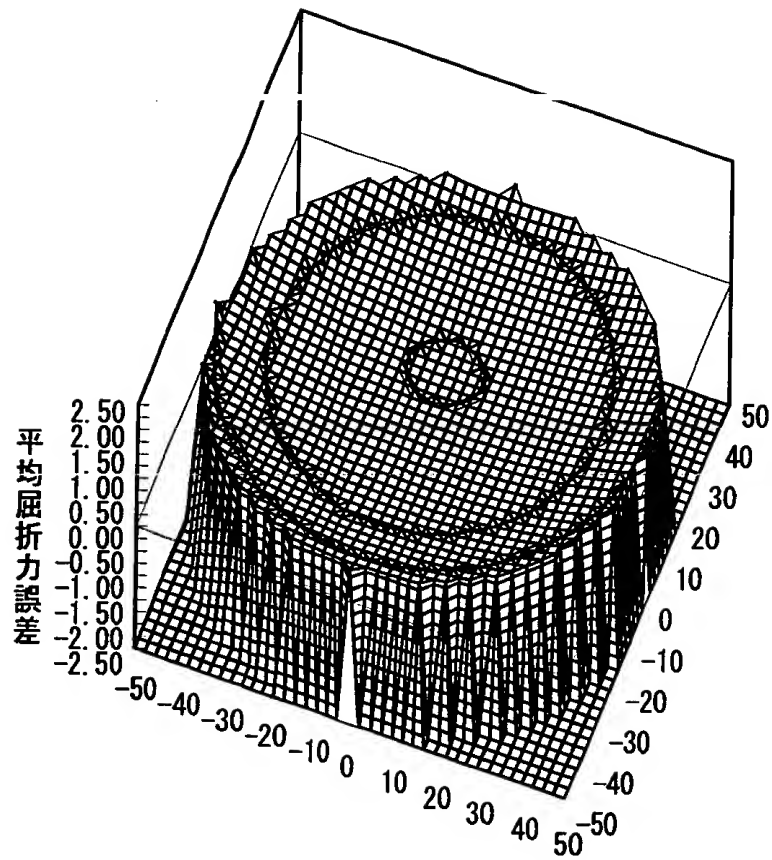
【図 5】



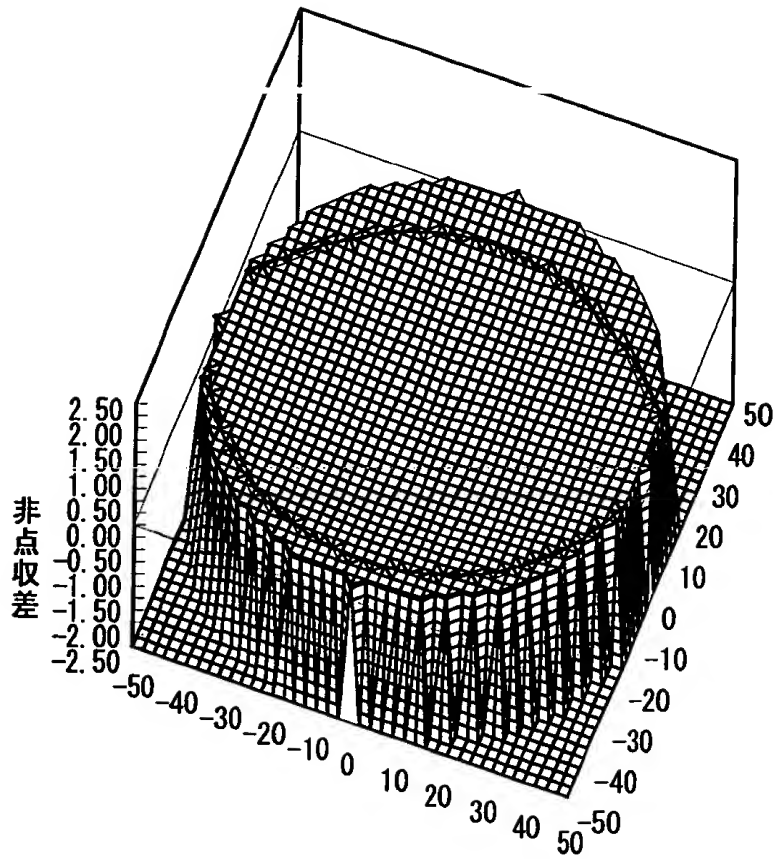
【図 6】



【図7】



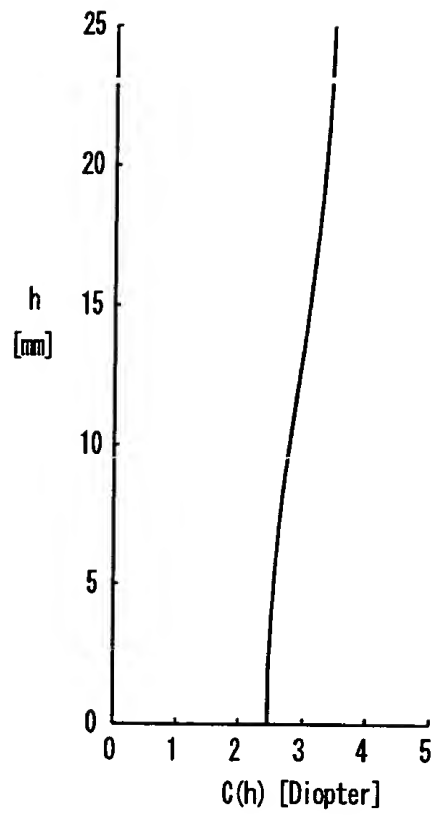
【図 8】



【図 9】

h	$C(h)$
0.0	2.44
5.0	2.54
10.0	2.79
15.0	3.09
20.0	3.34
25.0	3.46

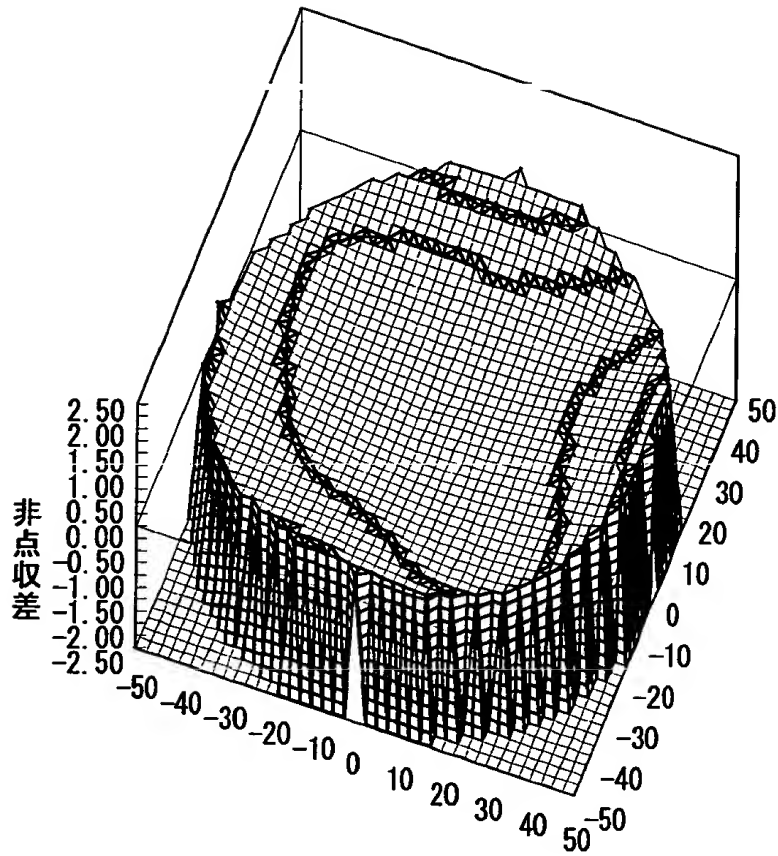
【図 10】



【図 11】

$h \setminus \theta$	$C(h, \theta)$							
	0	45	90	135	180	225	270	315
0.0	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46
5.0	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46
10.0	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46
15.0	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46
20.0	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46
25.0	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46	8.46

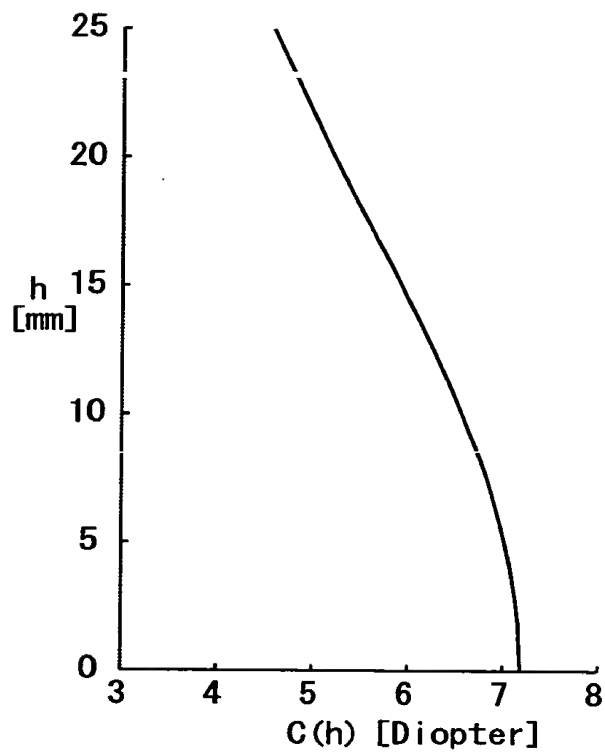
【図68】



【図69】

h	C(h)
0.0	7.17
5.0	7.01
10.0	6.56
15.0	5.93
20.0	5.23
25.0	4.57

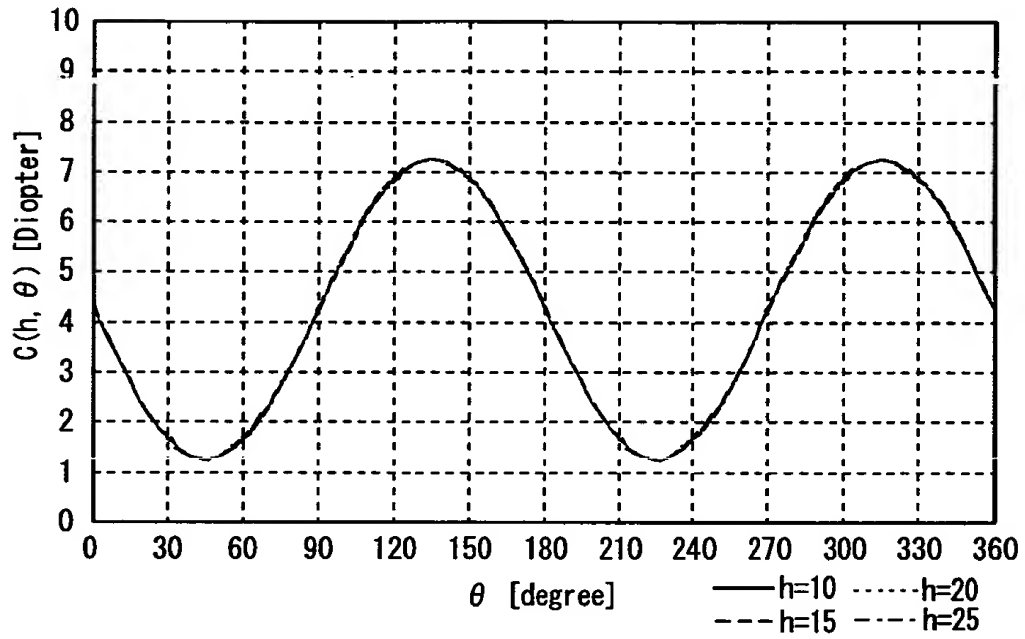
【図 70】



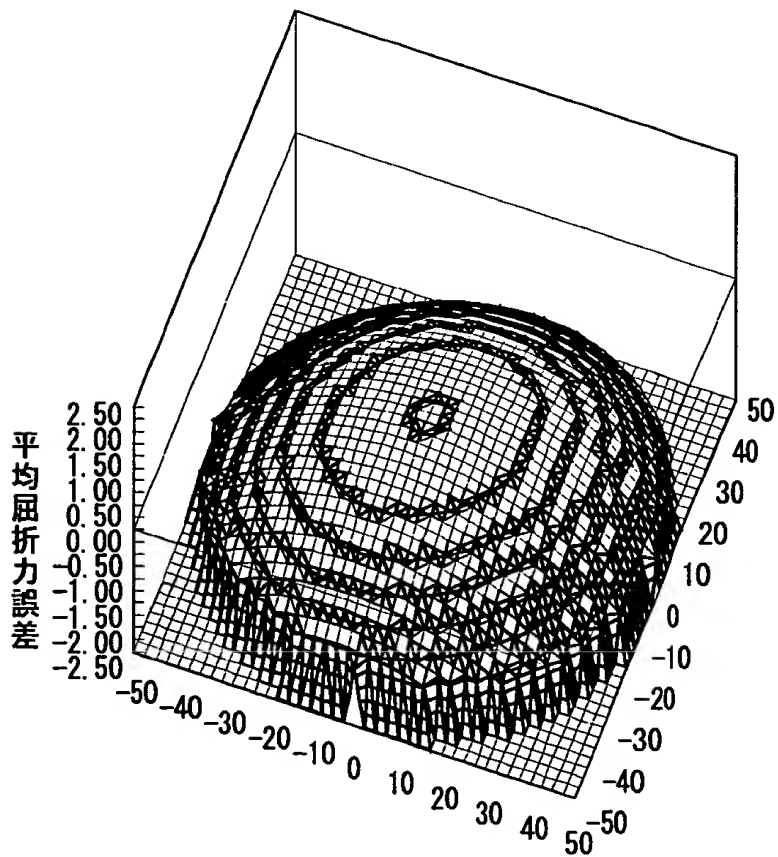
【図 71】

$C(h, \theta)$								
$h \setminus \theta$	0	45	90	135	180	225	270	315
0.0	4.27	1.26	4.27	7.27	4.27	1.26	4.27	7.27
5.0	4.27	1.26	4.27	7.27	4.27	1.26	4.27	7.27
10.0	4.27	1.26	4.27	7.27	4.27	1.26	4.27	7.27
15.0	4.27	1.26	4.27	7.27	4.27	1.26	4.27	7.27
20.0	4.28	1.26	4.28	7.27	4.28	1.26	4.28	7.27
25.0	4.29	1.26	4.29	7.27	4.29	1.26	4.29	7.27

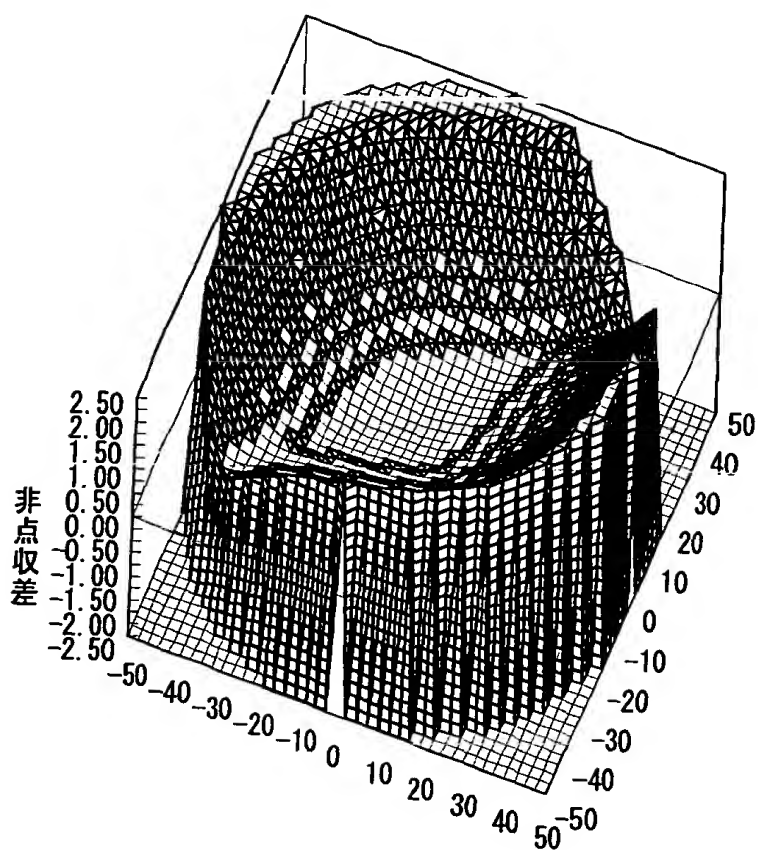
【図 7 2】



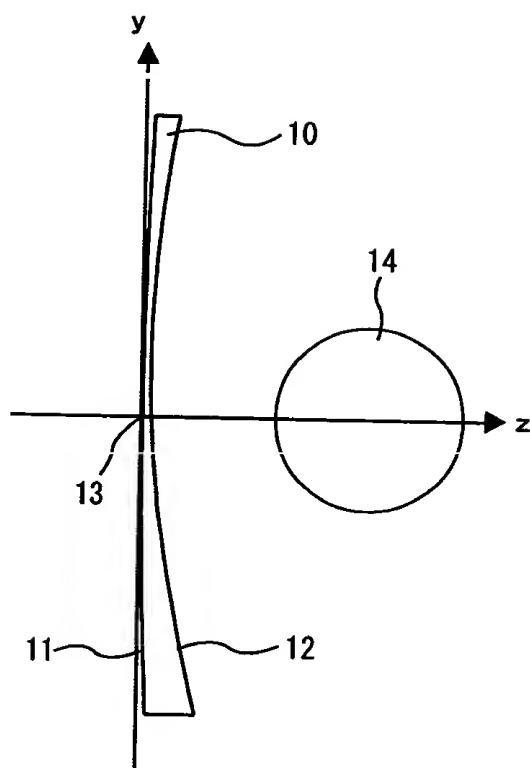
【図 7 3】



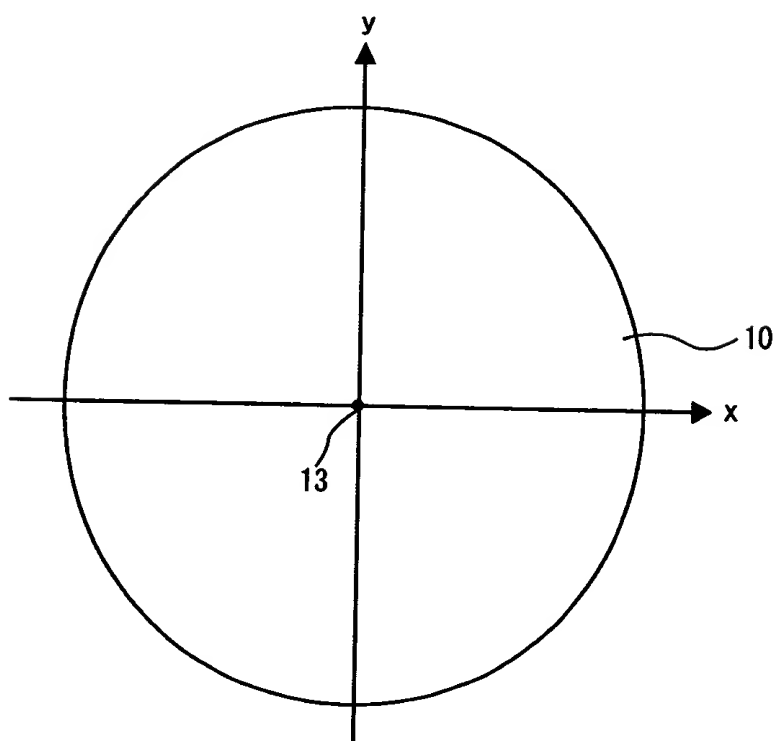
【図74】



【図75】



【図76】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 、斜位矯正のためのプリズム処方を含む場合に、他の処方に対しても良好な性能を得ることができる非球面眼鏡レンズを提供すること。

【解決手段】 非球面眼鏡レンズ 1 は、外面 2 が球面、内面 3 が非回転対称な非球面である。枠入れ基準点 4 に立てた内面 3 の法線を z 軸、z 軸が内面 3 と交差する点を含み z 軸に対して垂直な平面内でプリズム頂角方向を y 軸、左手座標系で y 軸および z 軸に直交する方向を x 軸とする。内面 3 は、x-y 平面に対して傾きなく、外面 2 が x-y 平面に対して傾いている。z 軸を含み x 軸と角度 θ [degree] をなす平面と内面 3 との交線の z 軸からの高さ h [mm] における曲率を $C(h, \theta)$ として表すとき、 $10 \leq h \leq 20$ 、 $30 \leq \theta \leq 150$ を満たす範囲内で、 $C(h, \theta + 180) - C(h, \theta) > 0$ の条件を満たす。

【選択図】 図 2

特2000-317241

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-317241
受付番号	50001342648
書類名	特許願
担当官	第一担当上席 0090
作成日	平成12年10月19日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年10月17日
-------	-------------

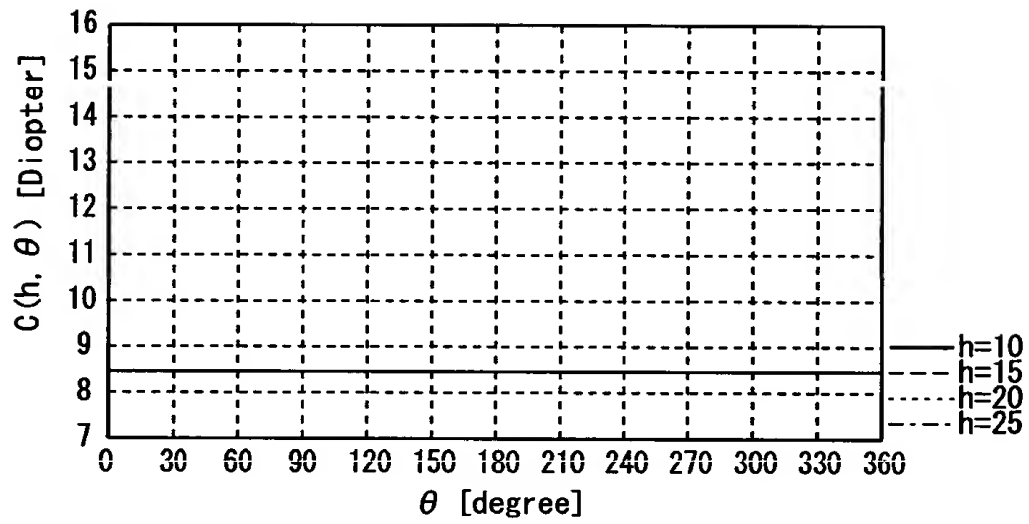
特2000-317241

出 願 人 履 歴 情 報

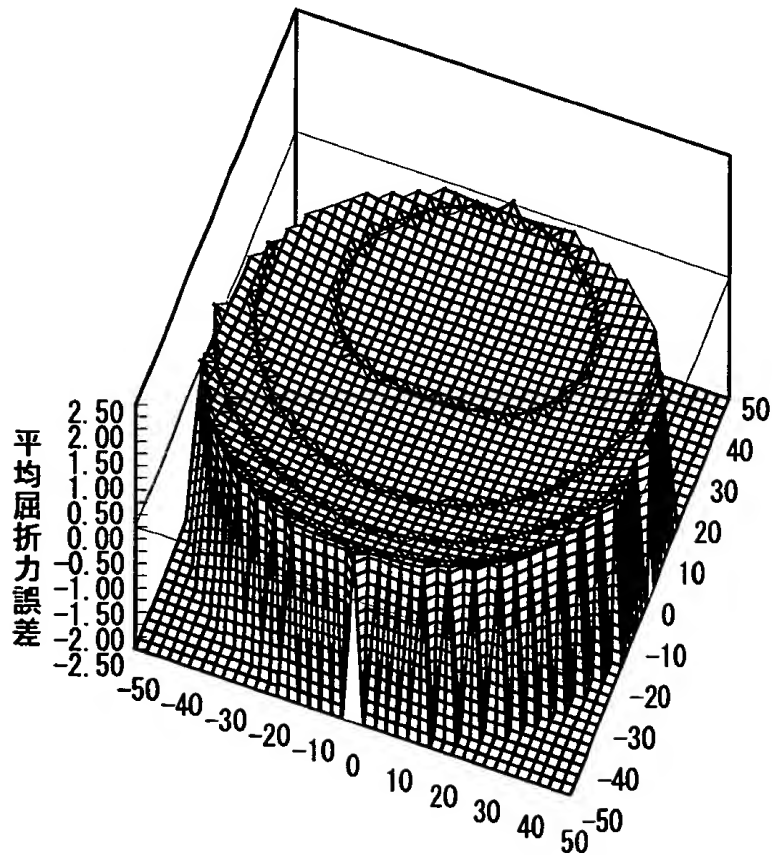
識別番号 {000000527}

1. 変更年月日 1990年 8月10日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都板橋区前野町2丁目36番9号
氏 名 旭光学工業株式会社

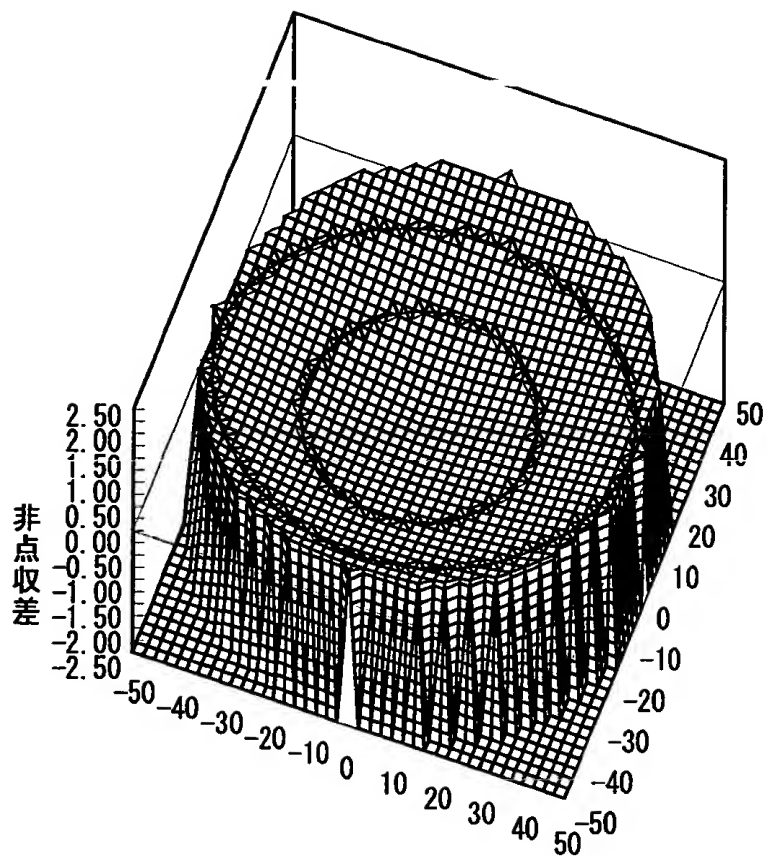
【図 1 2】



【図 1 3】



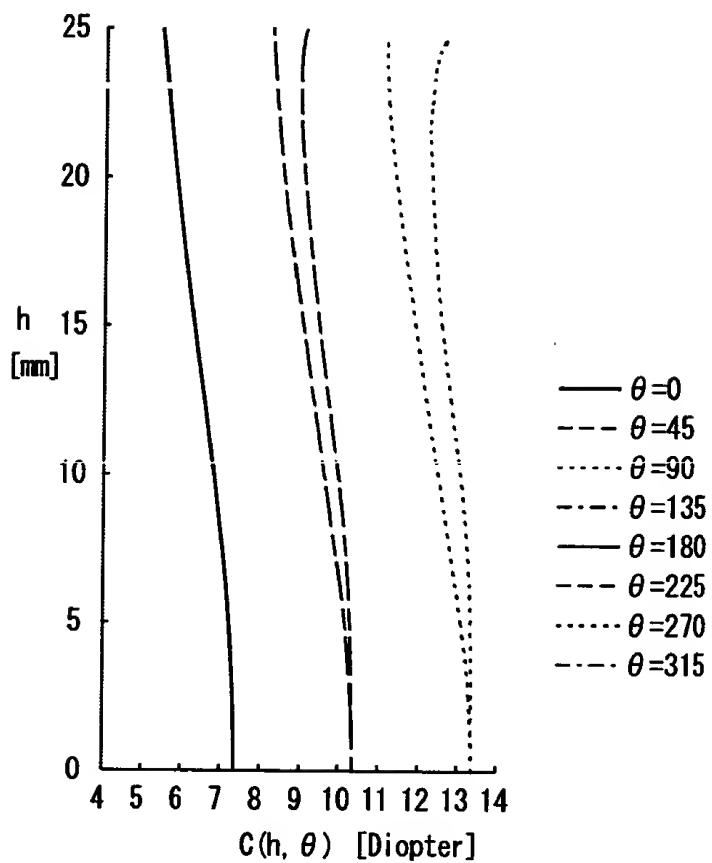
【図14】



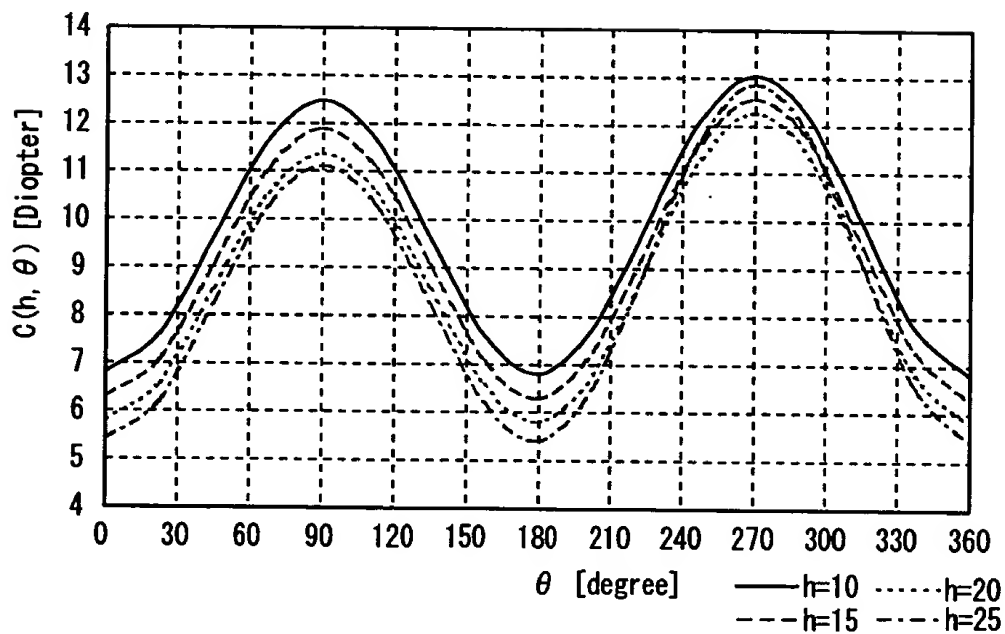
【図15】

		C(h, θ)							
h \ θ	0	45	90	135	180	225	270	315	
0.0	7.36	10.36	13.36	10.36	7.36	10.36	13.36	10.36	
5.0	7.21	10.14	13.08	10.14	7.21	10.28	13.33	10.28	
10.0	6.81	9.62	12.47	9.62	6.81	9.96	13.05	9.96	
15.0	6.30	9.05	11.89	9.05	6.30	9.47	12.56	9.47	
20.0	5.81	8.55	11.36	8.55	5.81	9.06	12.26	9.06	
25.0	5.42	8.23	11.11	8.23	5.42	9.08	12.86	9.08	

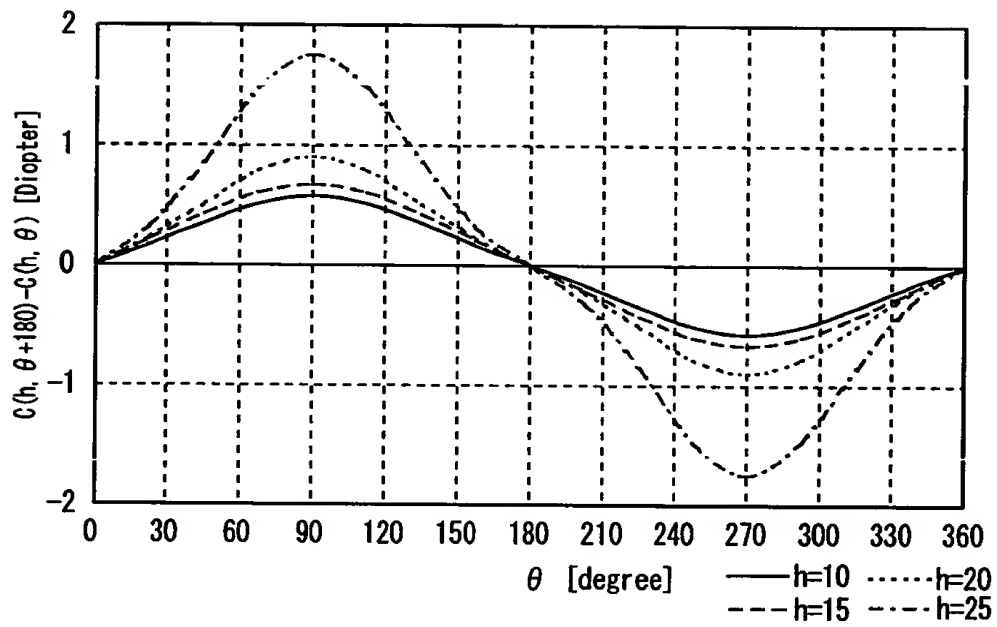
【図16】



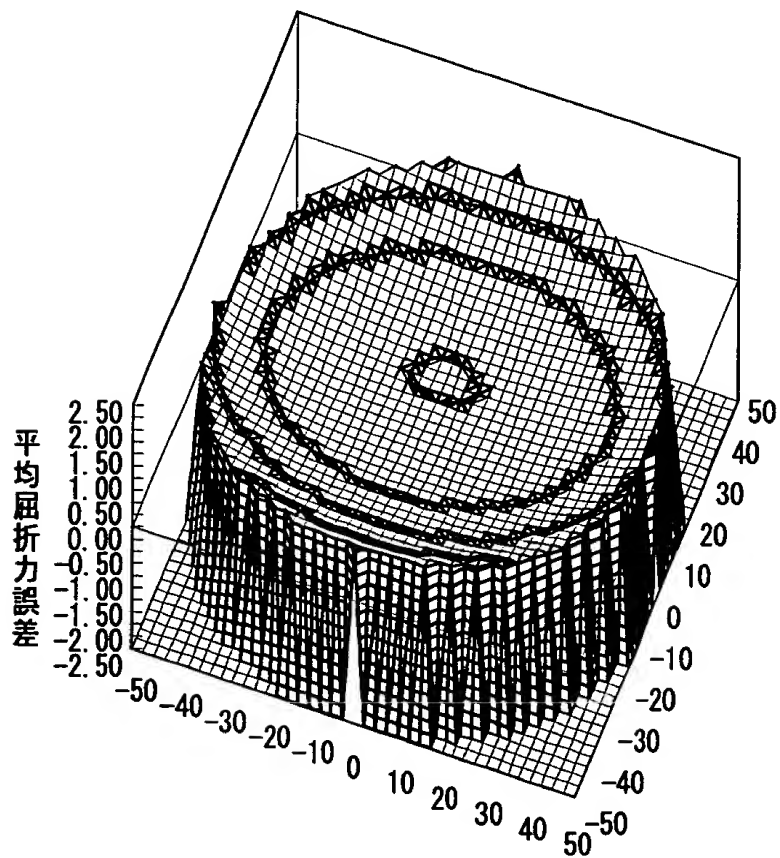
【図17】



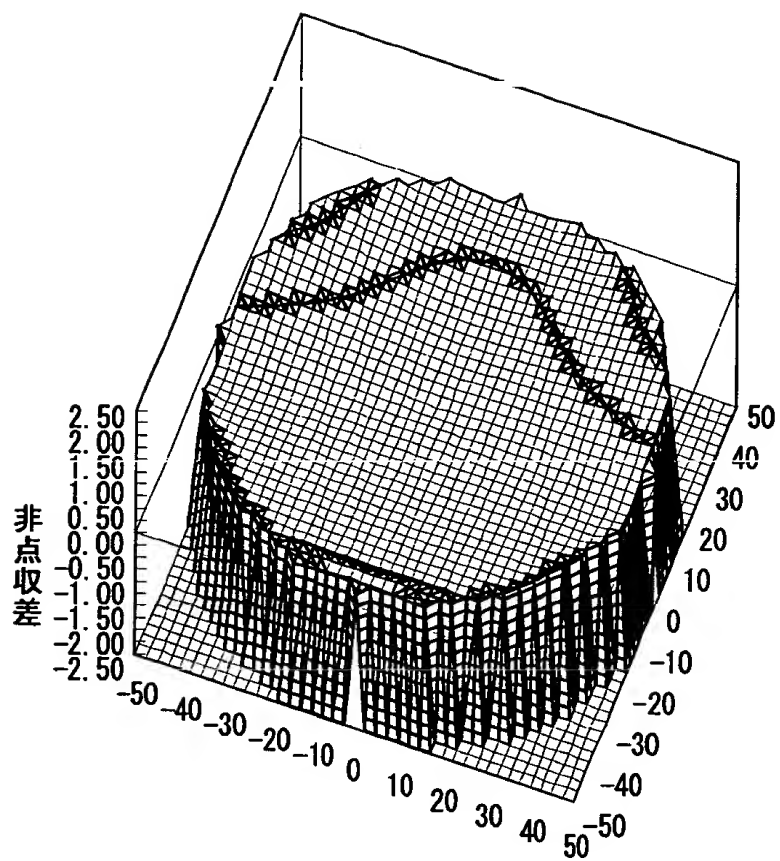
【図 18】



【図 19】



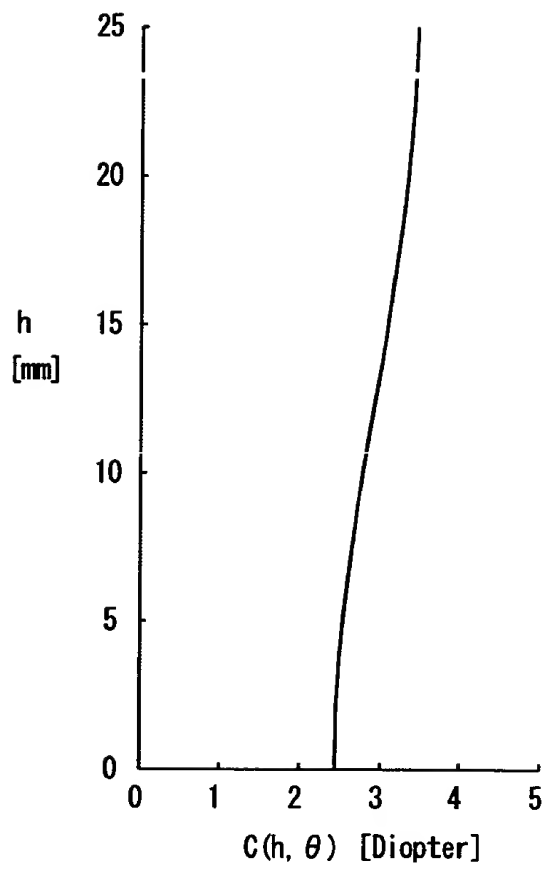
【図20】



【図21】

h	C(h)
0.0	2.44
5.0	2.54
10.0	2.79
15.0	3.09
20.0	3.34
25.0	3.46

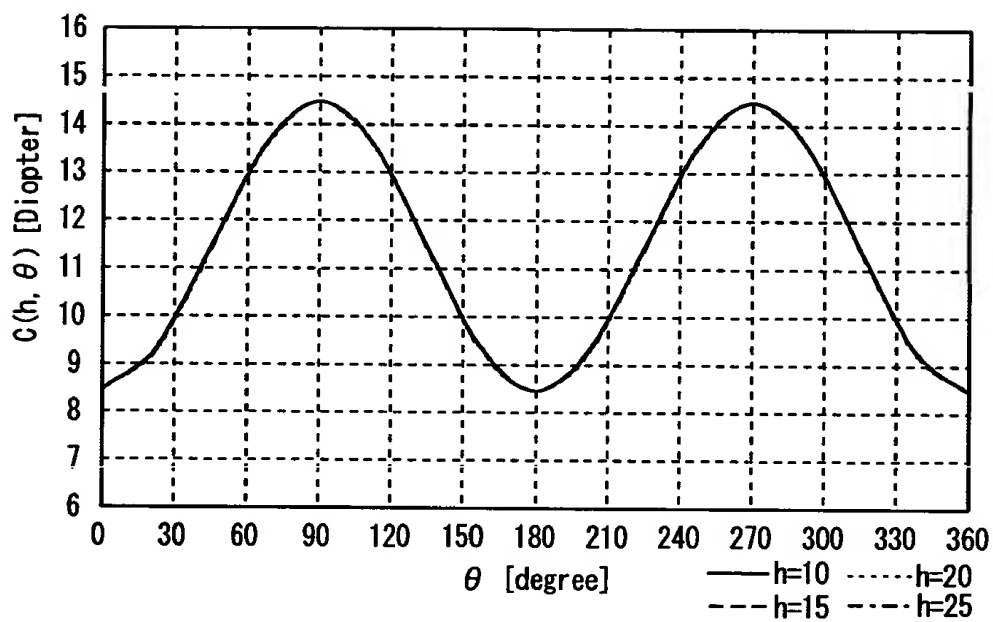
【図 2 2】



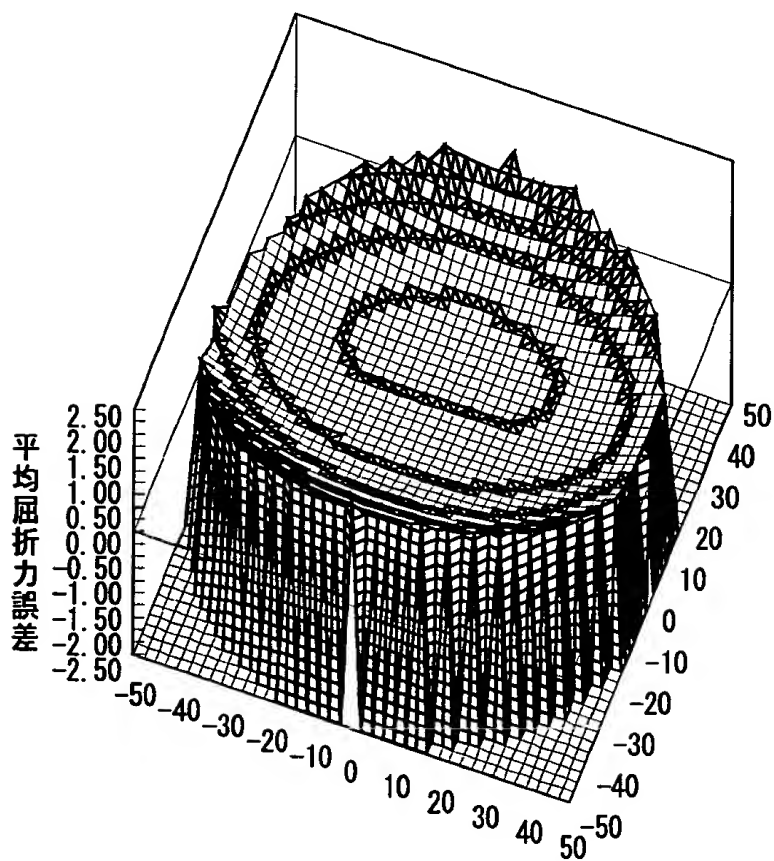
【図 2 3】

$h \setminus \theta$	$C(h, \theta)$							
	0	45	90	135	180	225	270	315
0	8.46	11.47	14.47	11.47	8.46	11.47	14.47	11.47
5	8.46	11.46	14.48	11.46	8.46	11.46	14.48	11.46
10	8.46	11.45	14.47	11.45	8.46	11.45	14.47	11.45
15	8.46	11.43	14.47	11.43	8.46	11.43	14.47	11.43
20	8.46	11.42	14.47	11.42	8.46	11.42	14.47	11.42
25	8.46	11.38	14.47	11.38	8.46	11.38	14.47	11.38

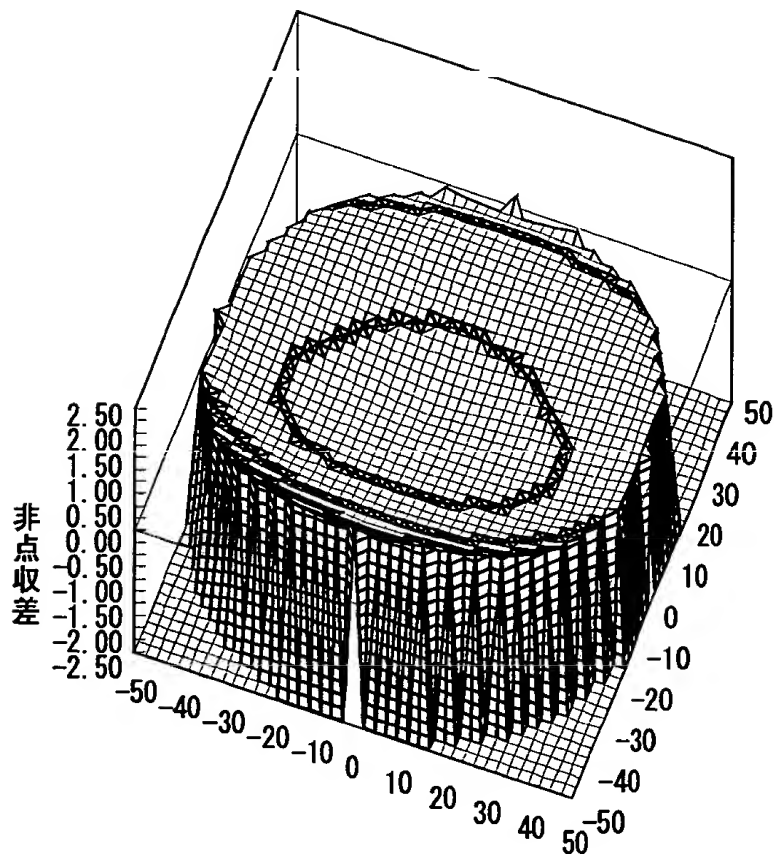
【図 2 4】



【図 2 5】



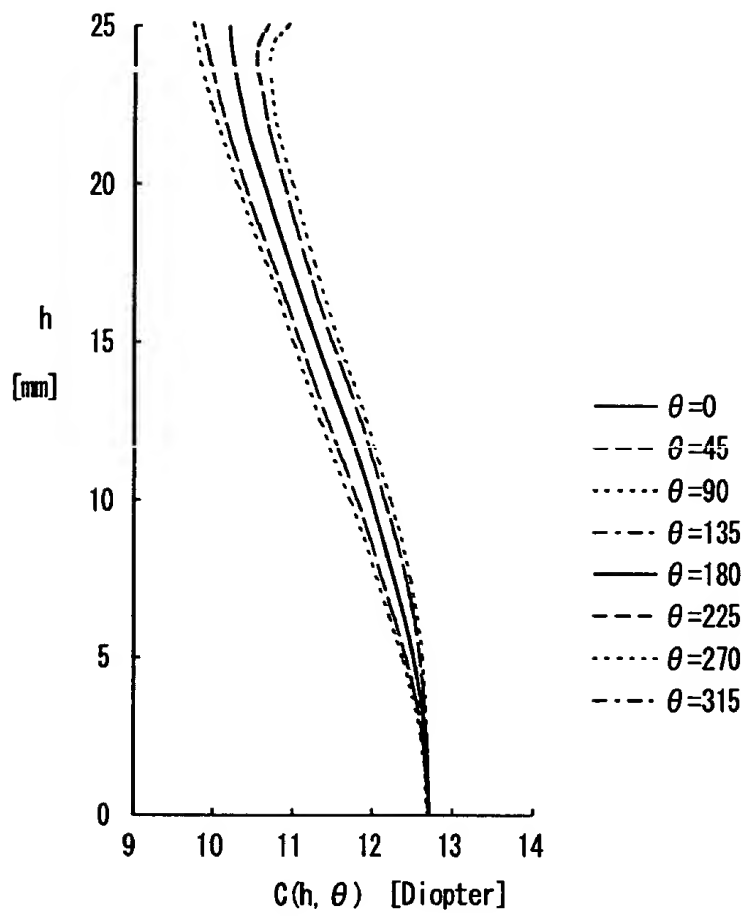
【図26】



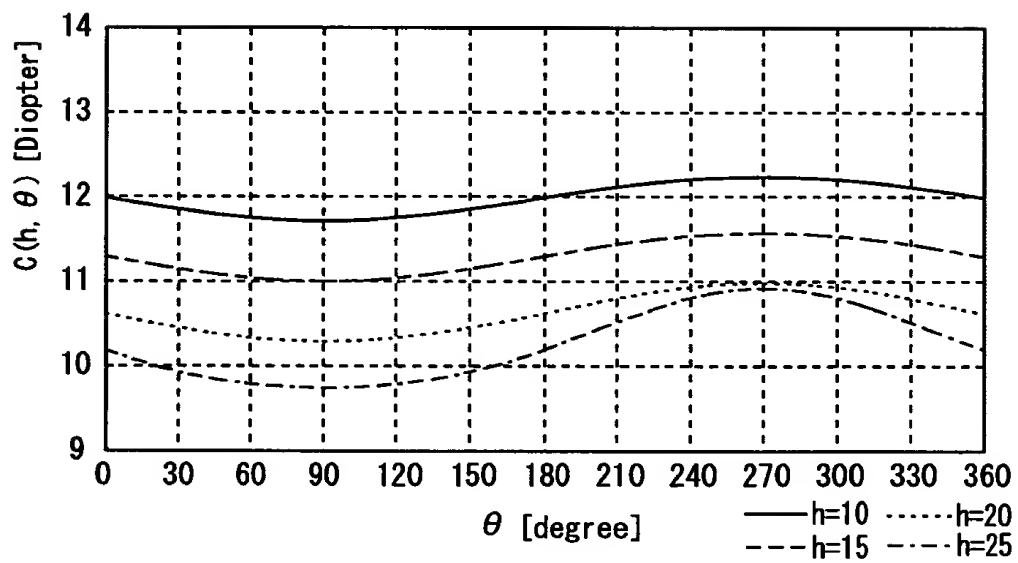
【図27】

$h \backslash \theta$	$C(h, \theta)$							
	0	45	90	135	180	225	270	315
0	12.71	12.70	12.69	12.70	12.71	12.70	12.69	12.70
5	12.51	12.42	12.39	12.42	12.51	12.59	12.62	12.59
10	11.99	11.79	11.71	11.79	11.99	12.17	12.24	12.17
15	11.30	11.09	11.00	11.09	11.30	11.49	11.57	11.49
20	10.62	10.38	10.29	10.38	10.62	10.87	10.98	10.87
25	10.19	9.85	9.75	9.85	10.19	10.68	10.92	10.68

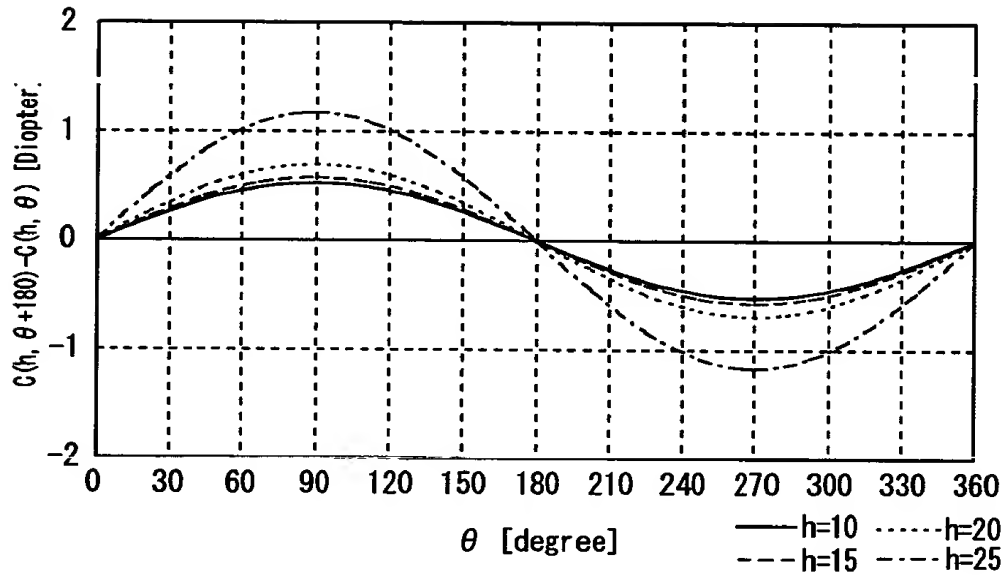
【図28】



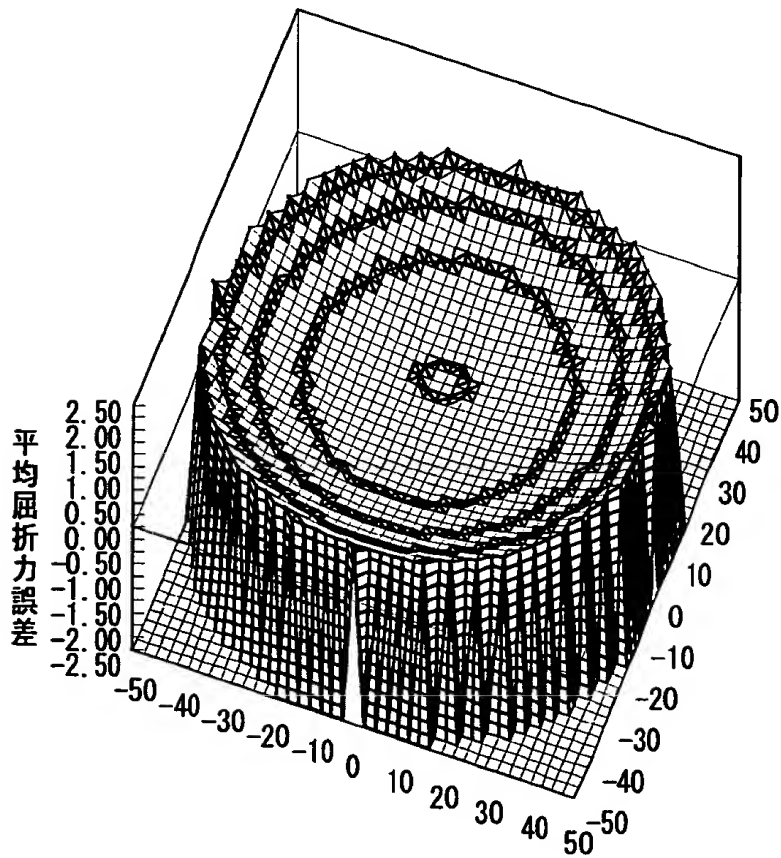
【図29】



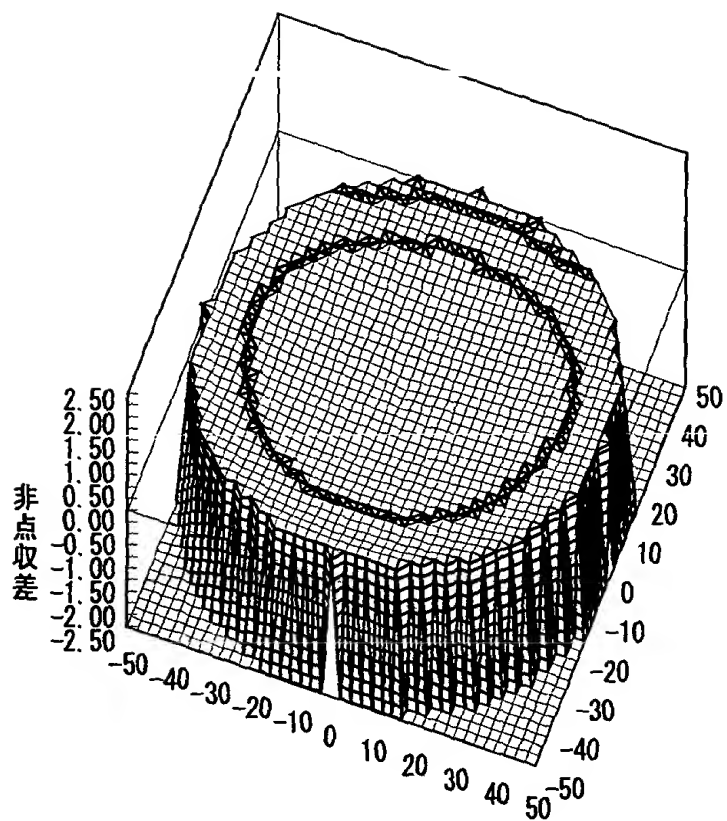
【図 3 0】



【図 3 1】



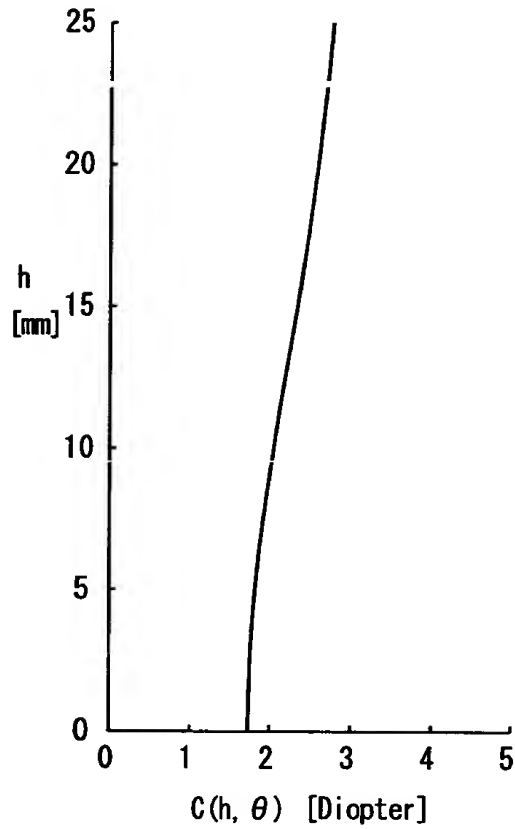
【図32】



【図33】

h	$C(h)$
0.0	1.73
5.0	1.81
10.0	2.04
15.0	2.33
20.0	2.59
25.0	2.77

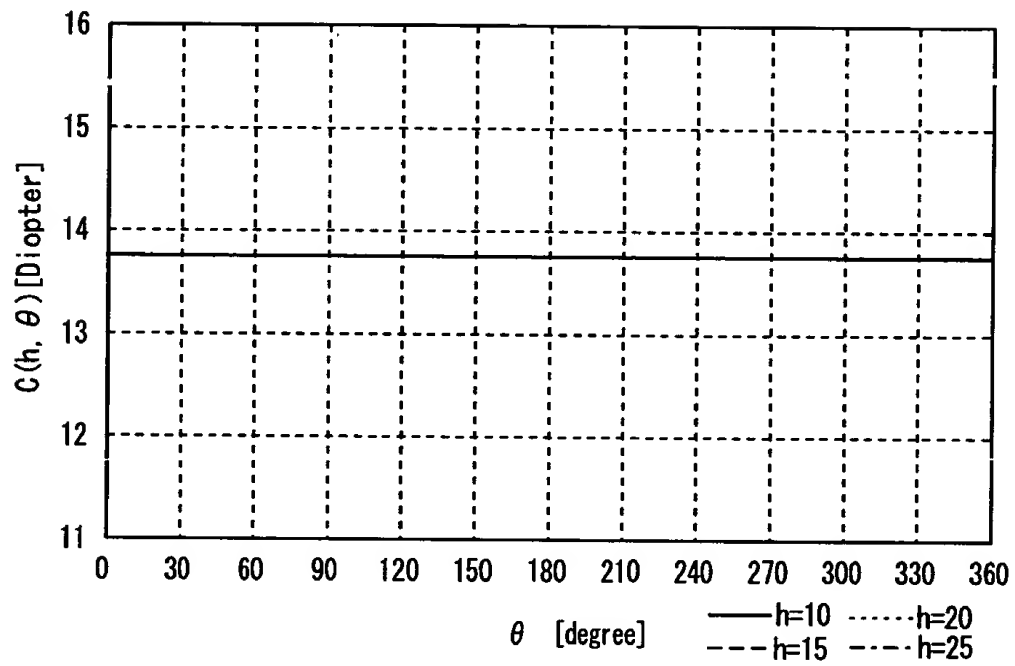
【図 3 4】



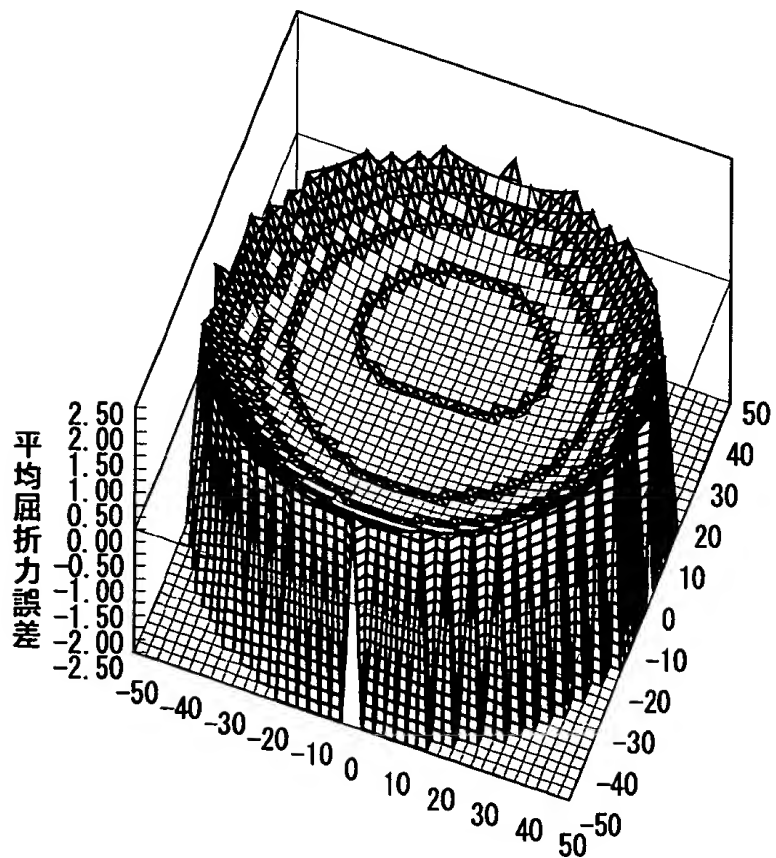
【図 3 5】

$h \setminus \theta$	$C(h, \theta)$							
	0	45	90	135	180	225	270	315
0.0	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76
5.0	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76
10.0	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76
15.0	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76
20.0	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76
25.0	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76	13.76

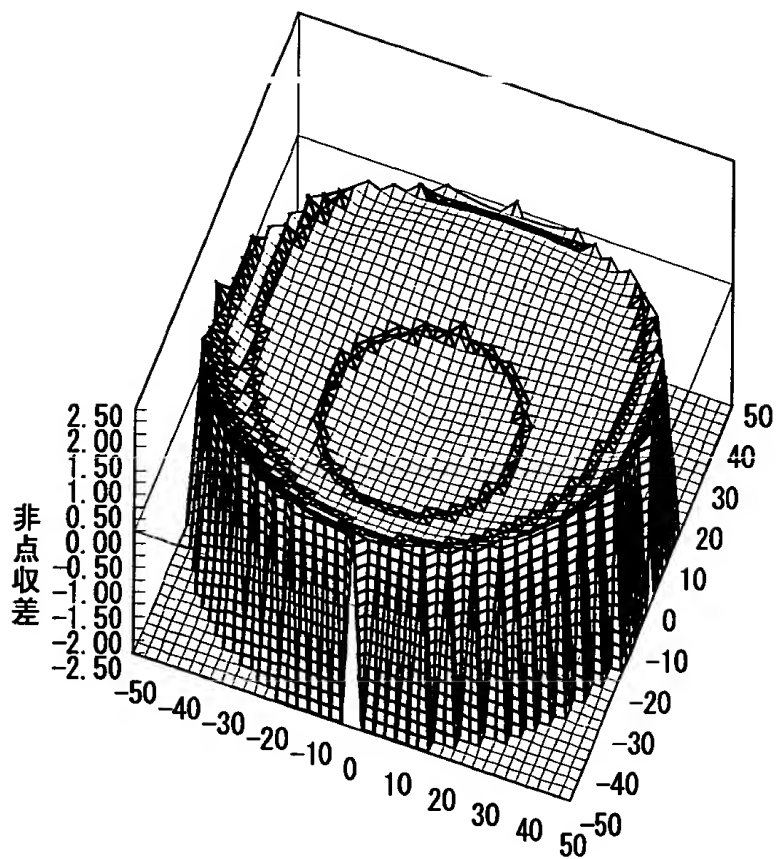
【図 3 6】



【図 3 7】



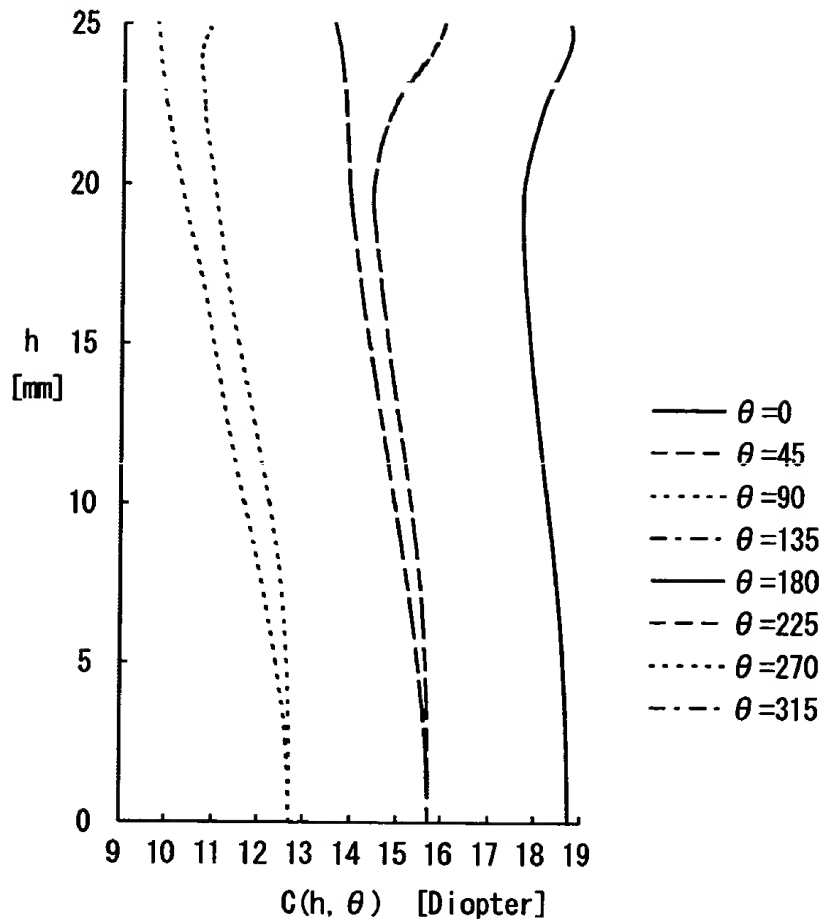
【図38】



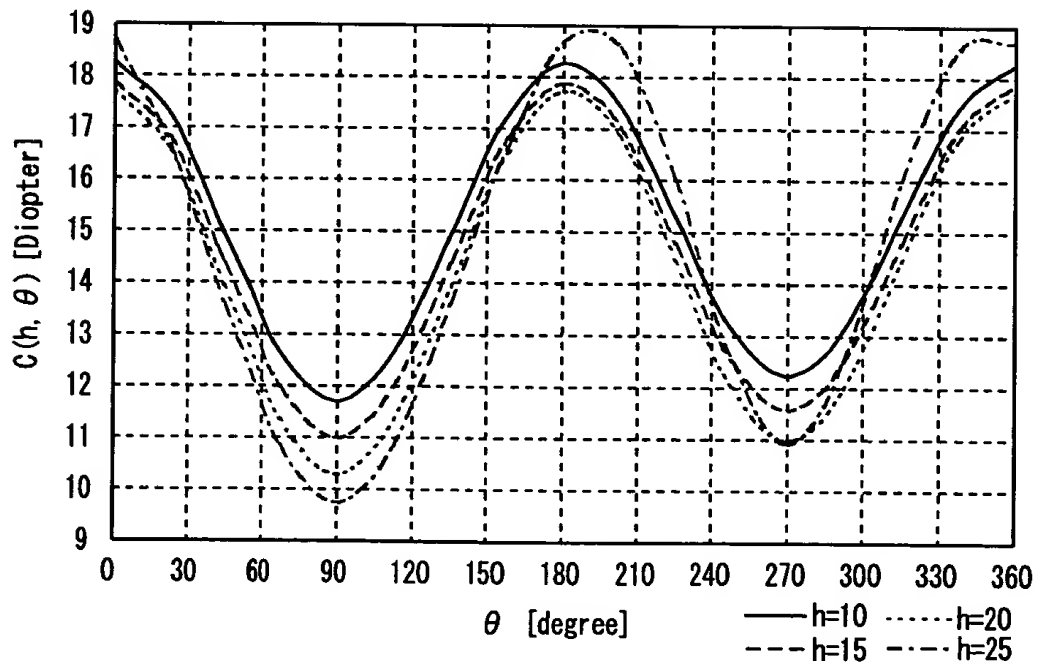
【図39】

		$C(h, \theta)$							
$h \backslash \theta$		0	45	90	135	180	225	270	315
0.0		18.72	15.70	12.69	15.70	18.72	15.70	12.69	15.70
5.0		18.60	15.46	12.39	15.46	18.60	15.63	12.62	15.63
10.0		18.26	14.94	11.71	14.94	18.26	15.29	12.24	15.29
15.0		17.88	14.38	11.00	14.38	17.88	14.78	11.57	14.78
20.0		17.72	13.92	10.29	13.92	17.72	14.45	10.98	14.45
25.0		18.68	13.59	9.75	13.59	18.68	16.00	10.92	16.00

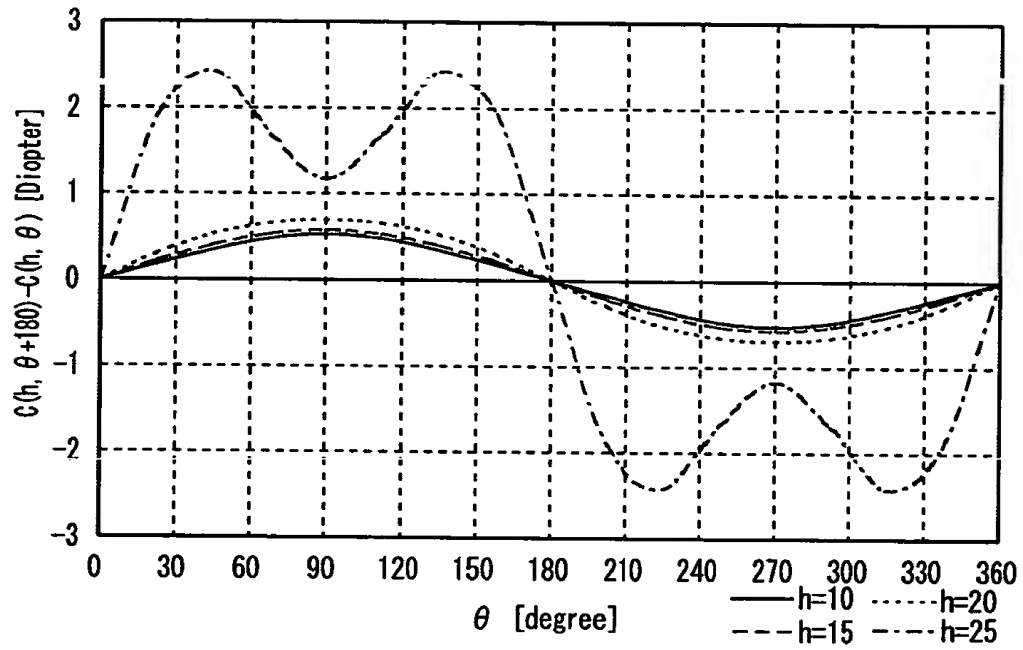
【図 40】



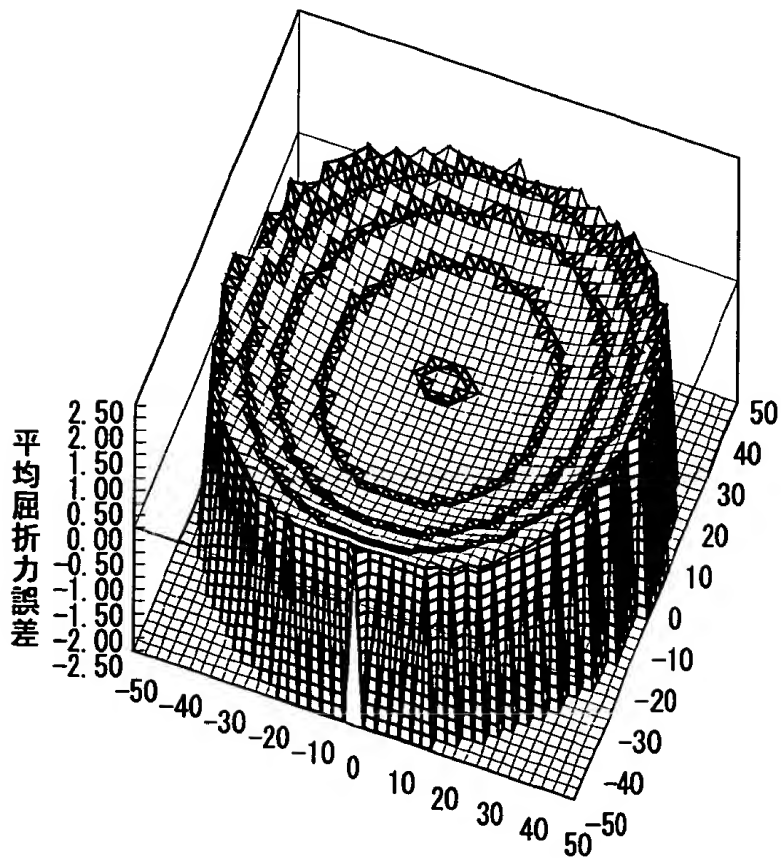
【図 41】



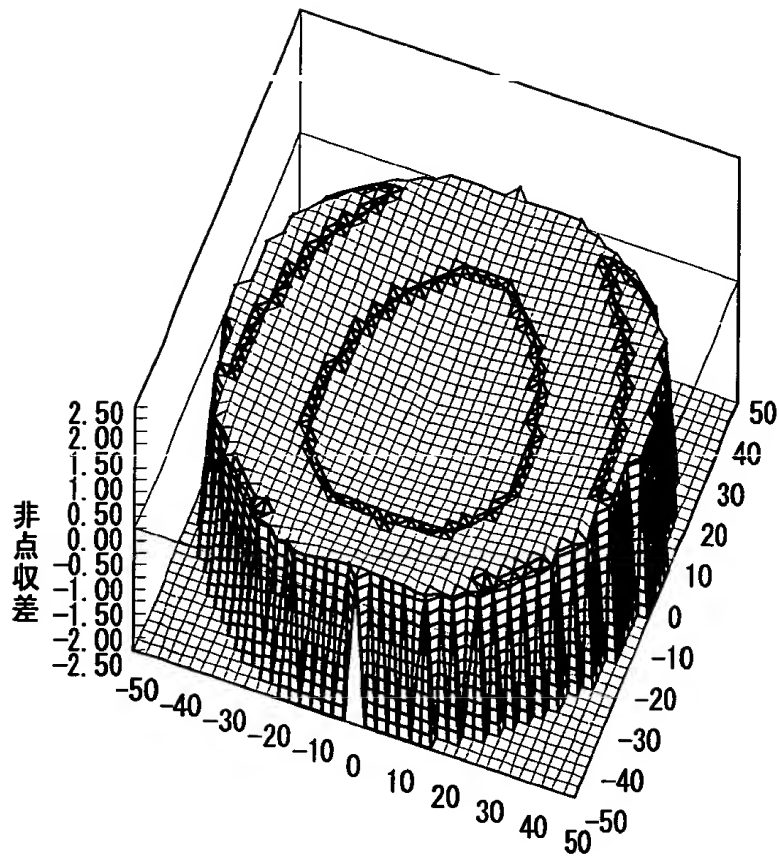
【図 4 2】



【図 4 3】



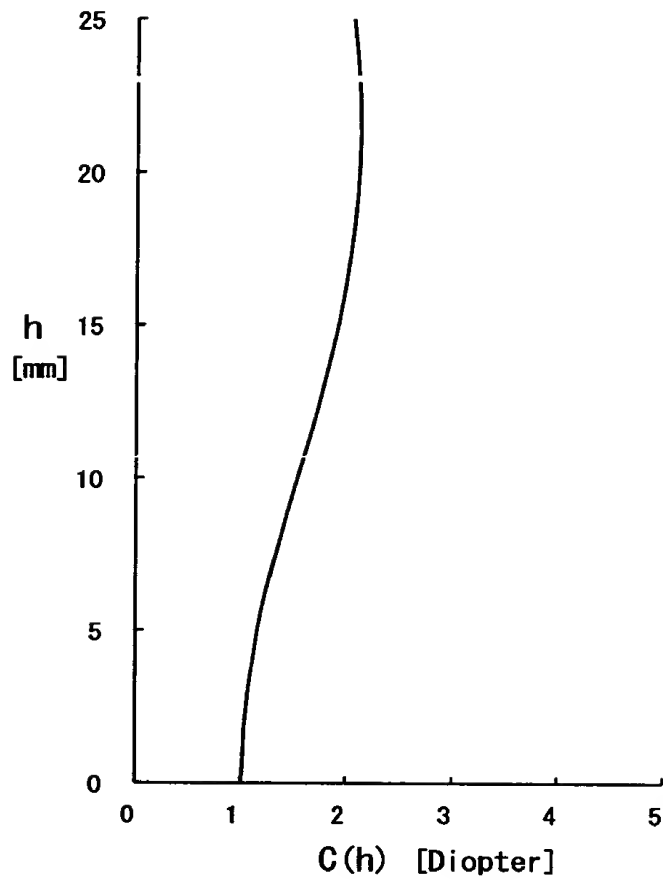
【図 4 4】



【図 4 5】

h	C(h)
0.0	1.00
5.0	1.16
10.0	1.54
15.0	1.92
20.0	2.11
25.0	2.06

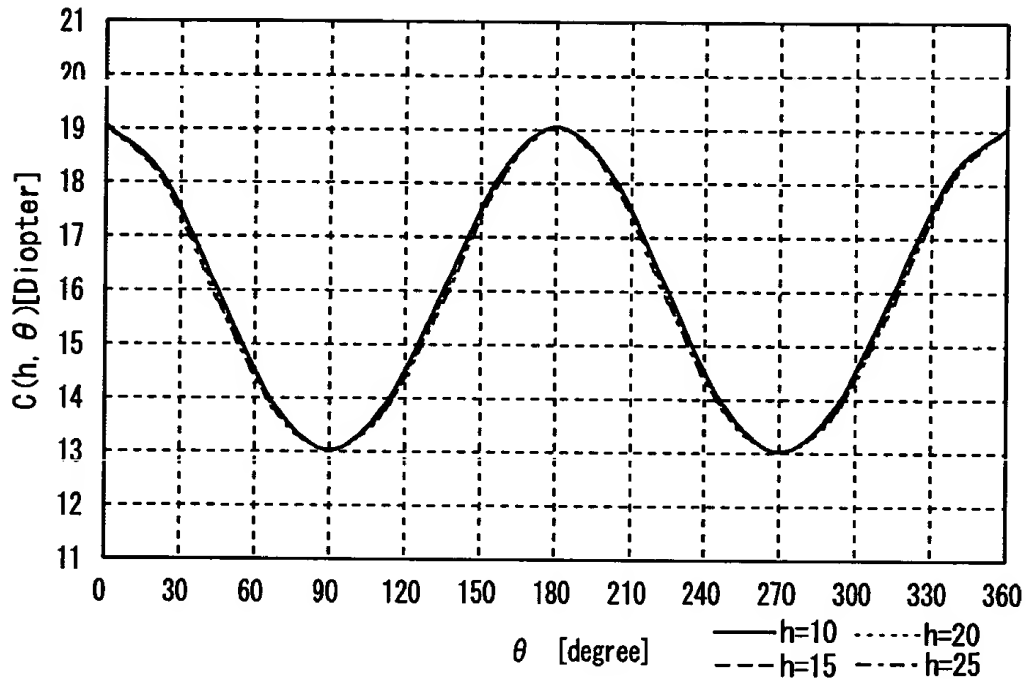
【図 4 6】



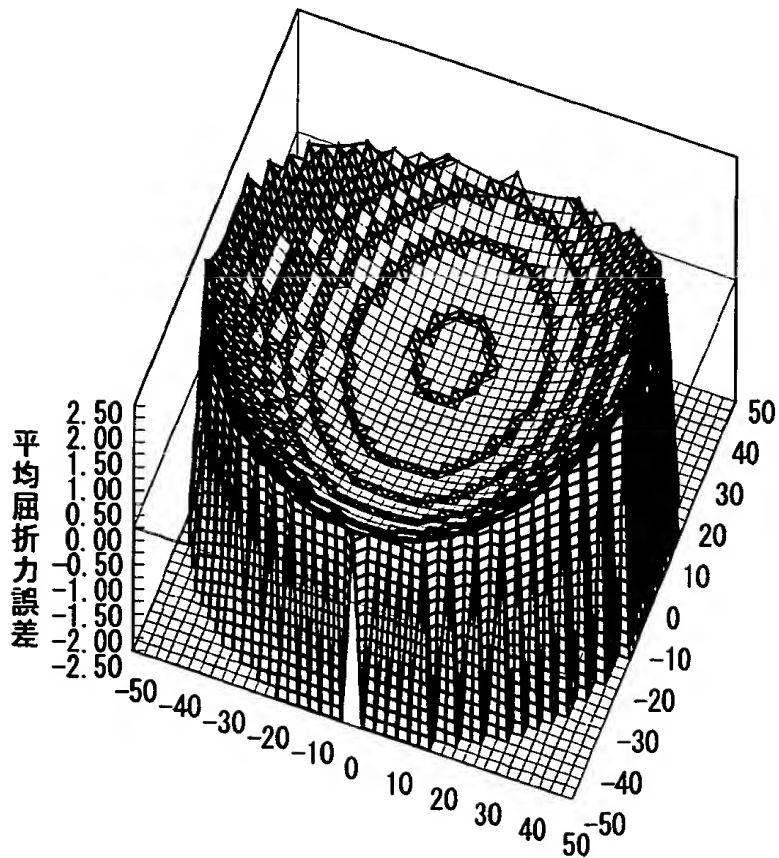
【図 4 7】

$C(h, \theta)$								
$h \setminus \theta$	0	45	90	135	180	225	270	315
0.0	19.05	16.04	13.03	16.04	19.05	16.04	13.03	16.04
5.0	19.05	16.03	13.04	16.03	19.05	16.03	13.04	16.03
10.0	19.05	16.00	13.03	16.00	19.05	16.00	13.03	16.00
15.0	19.05	15.96	13.03	15.96	19.05	15.96	13.03	15.96
20.0	19.05	15.90	13.04	15.90	19.05	15.90	13.04	15.90
25.0	19.05	15.80	13.04	15.80	19.05	15.80	13.04	15.80

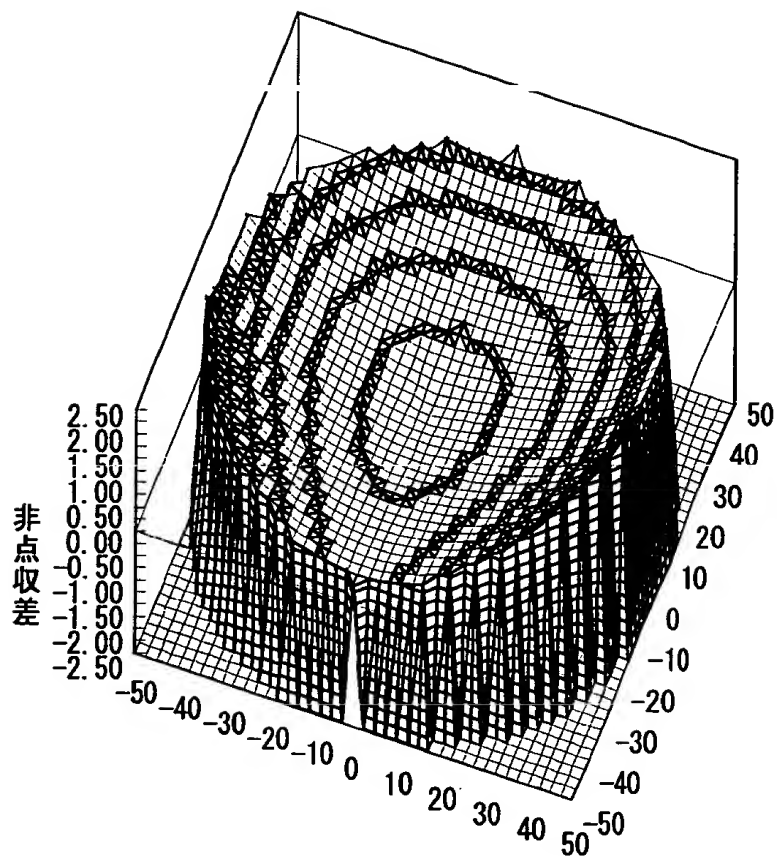
【図 4 8】



【図 4 9】



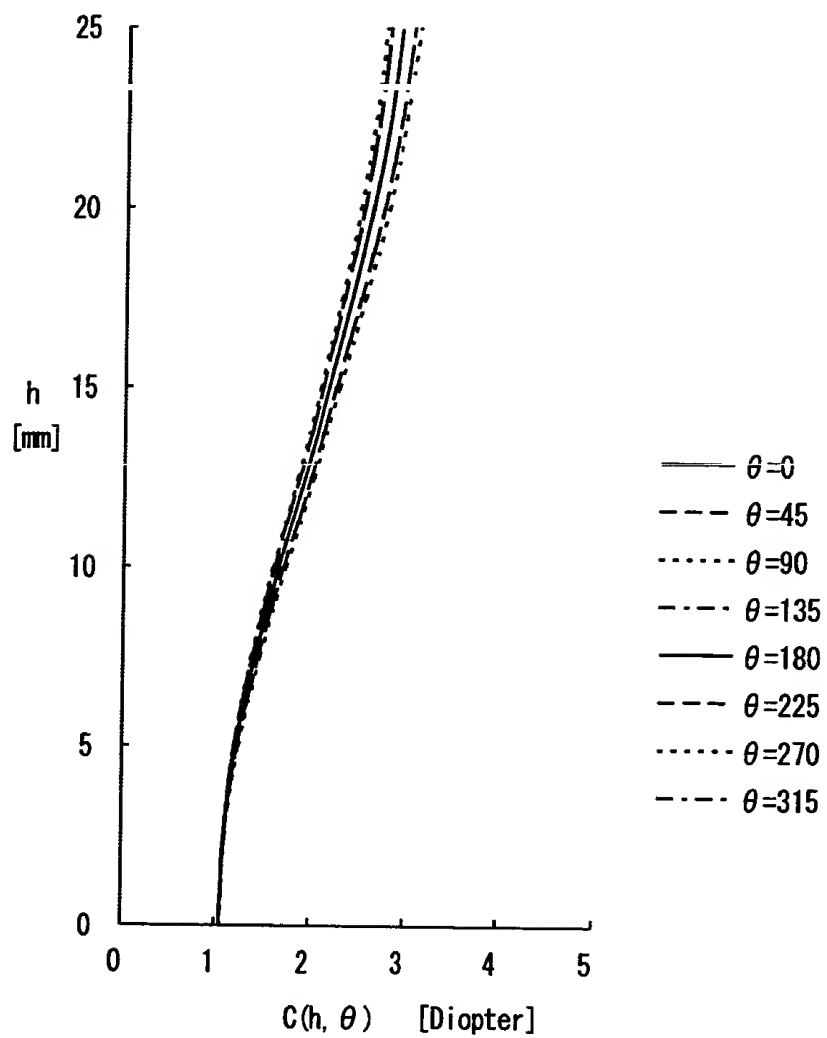
【図 5 0】



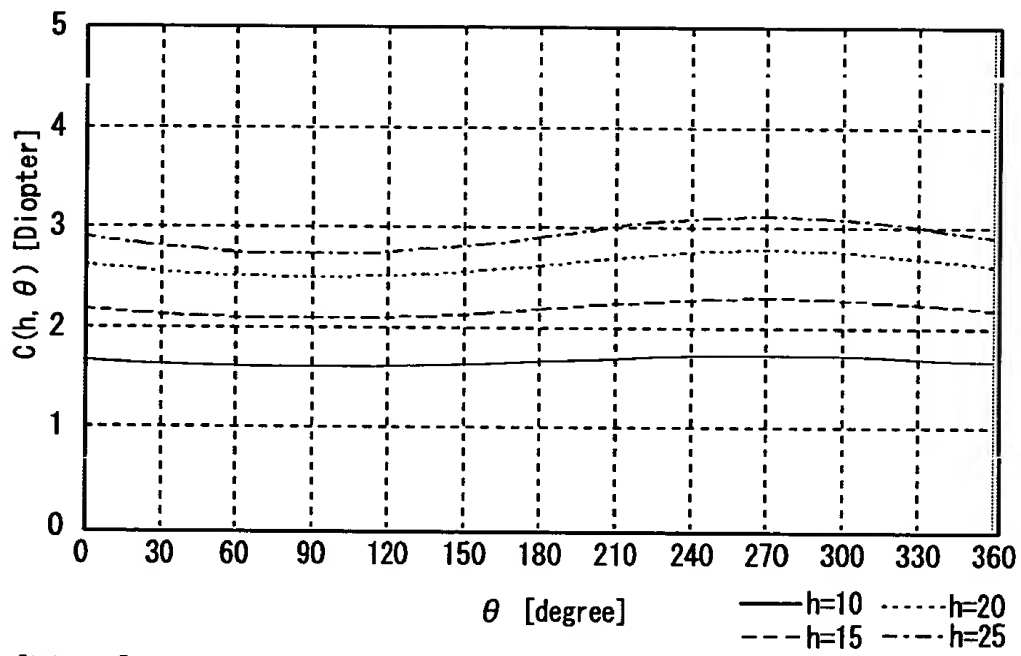
【図 5 1】

$C(h, \theta)$								
$h \setminus \theta$	0	45	90	135	180	225	270	315
0.0	1.05	1.06	1.06	1.06	1.05	1.06	1.06	1.06
5.0	1.22	1.21	1.21	1.21	1.22	1.24	1.25	1.24
10.0	1.66	1.62	1.60	1.62	1.66	1.71	1.73	1.71
15.0	2.19	2.12	2.10	2.12	2.19	2.27	2.31	2.27
20.0	2.64	2.55	2.51	2.55	2.64	2.74	2.79	2.74
25.0	2.91	2.79	2.74	2.79	2.91	3.06	3.13	3.06

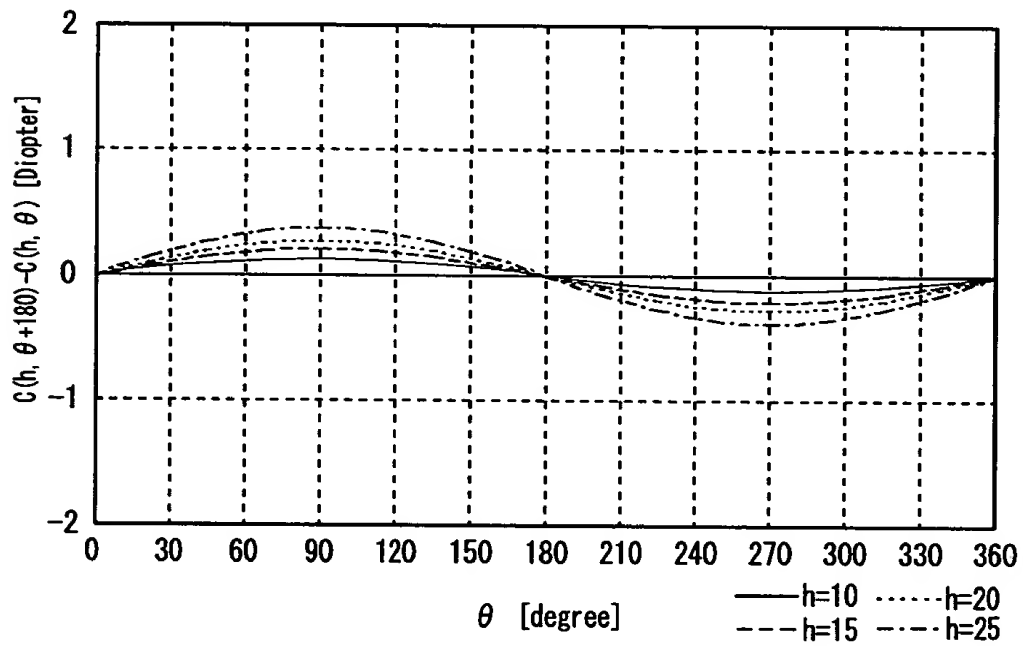
【図 5 2】



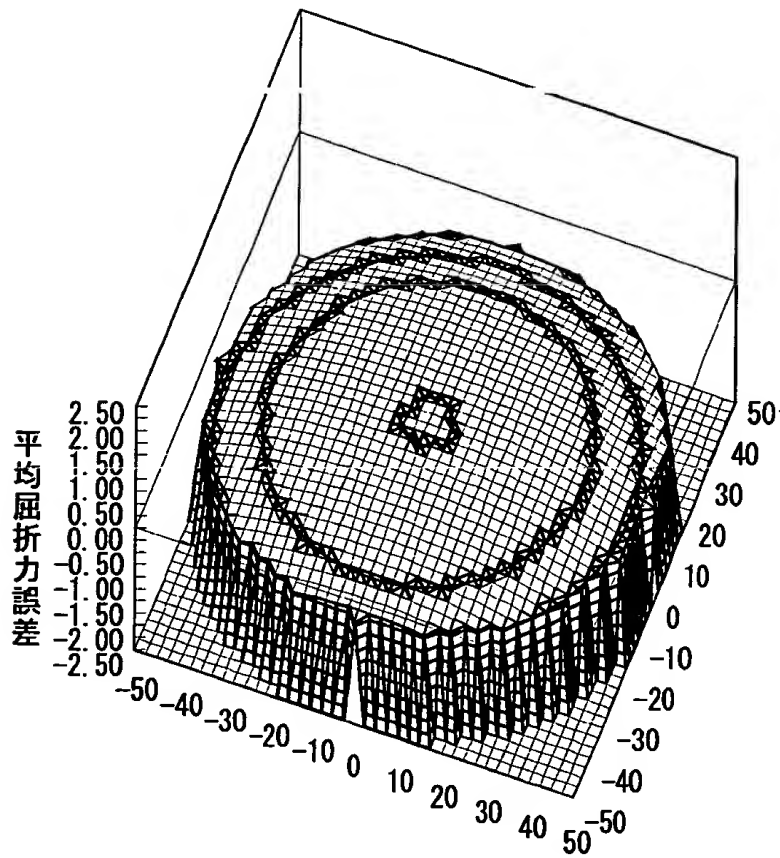
【図 5 3】



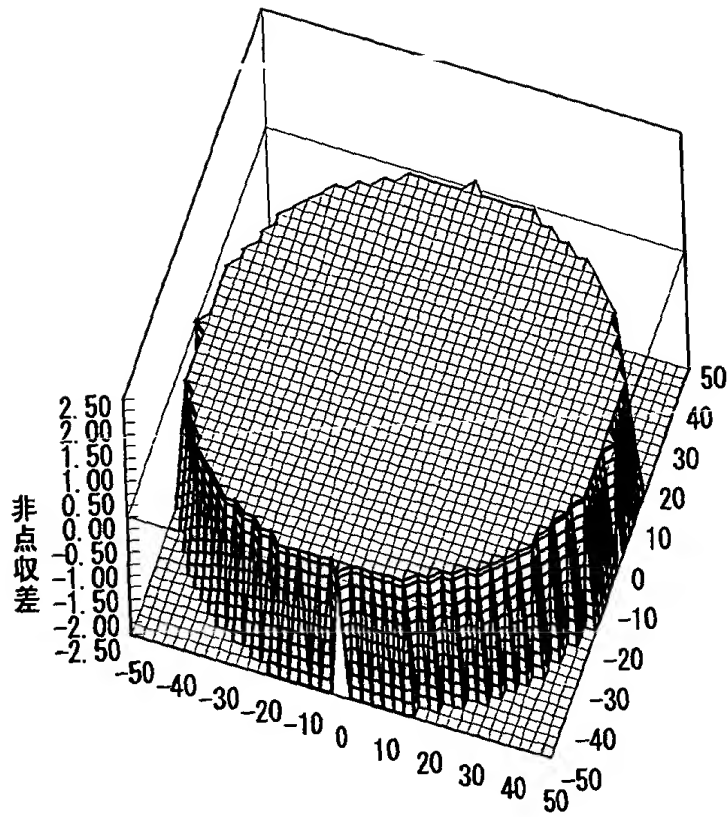
【図 5 4】



【図55】



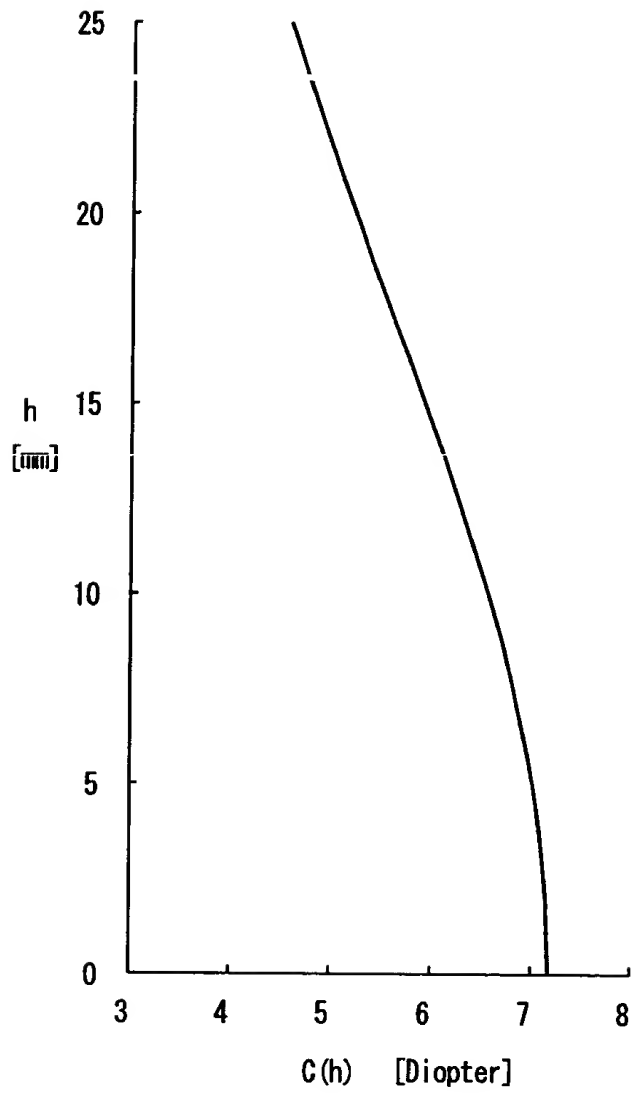
【図56】



【図57】

h	$C(h)$
0.0	7.17
5.0	7.01
10.0	6.56
15.0	5.93
20.0	5.23
25.0	4.57

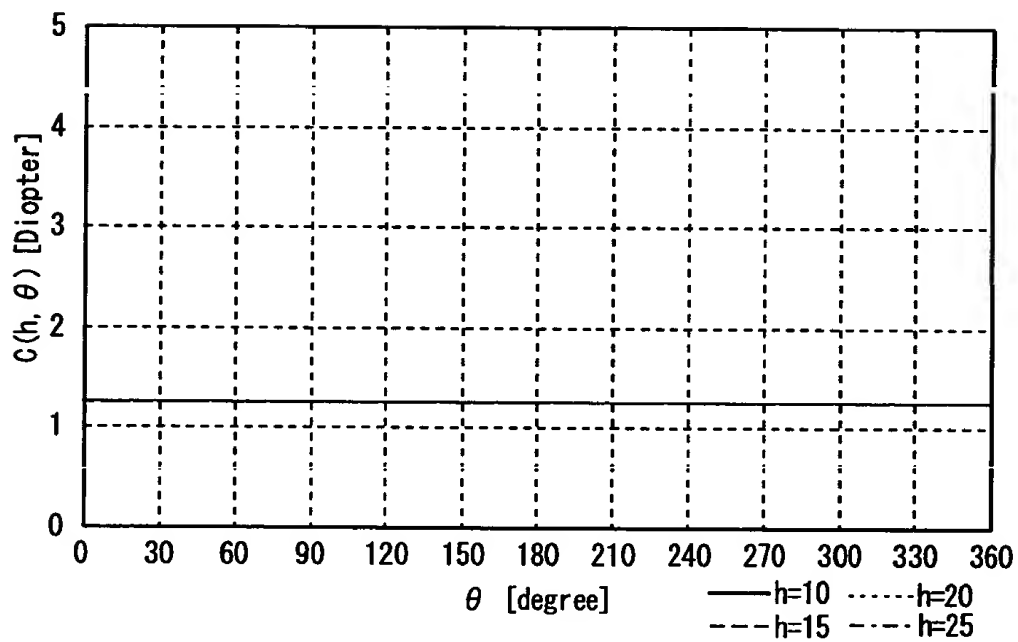
【図58】



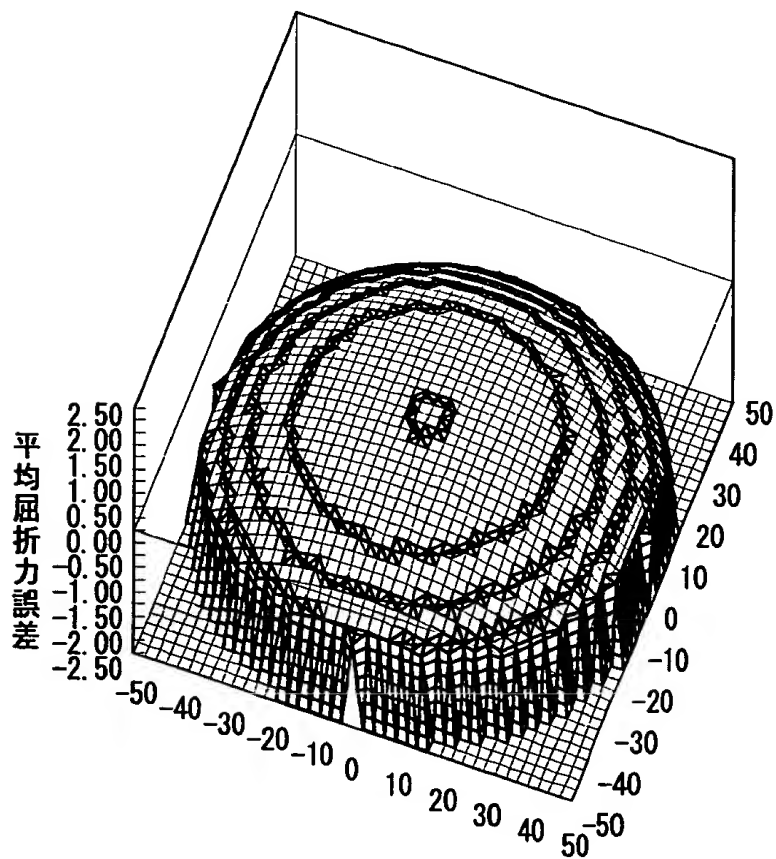
【図59】

$C(h, \theta)$								
$h \setminus \theta$	0	45	90	135	180	225	270	315
0.0	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26
5.0	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26
10.0	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26
15.0	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26
20.0	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26
25.0	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26

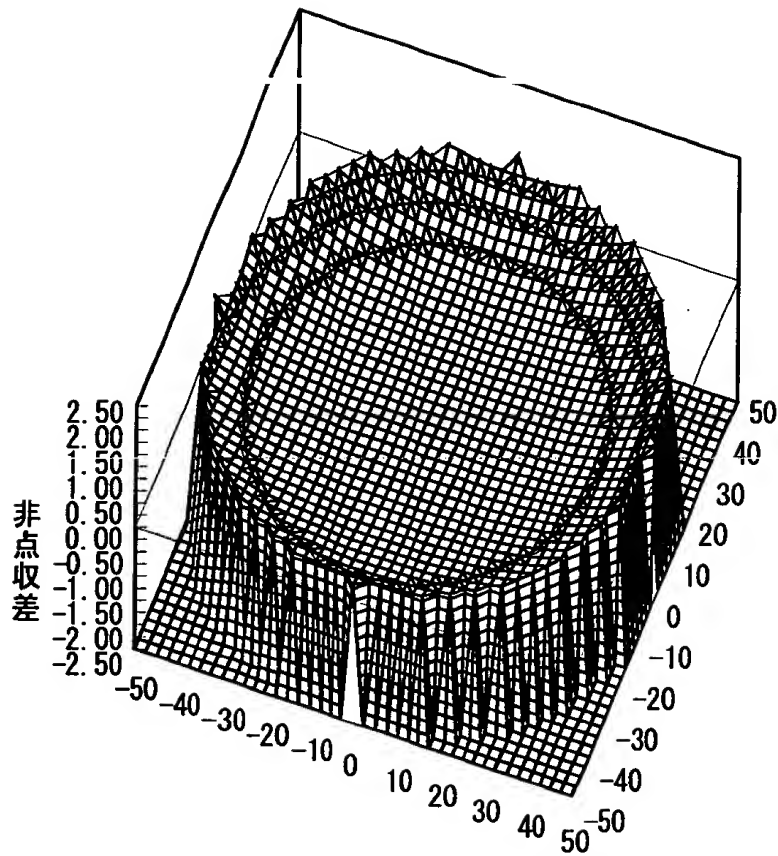
【図60】



【図61】



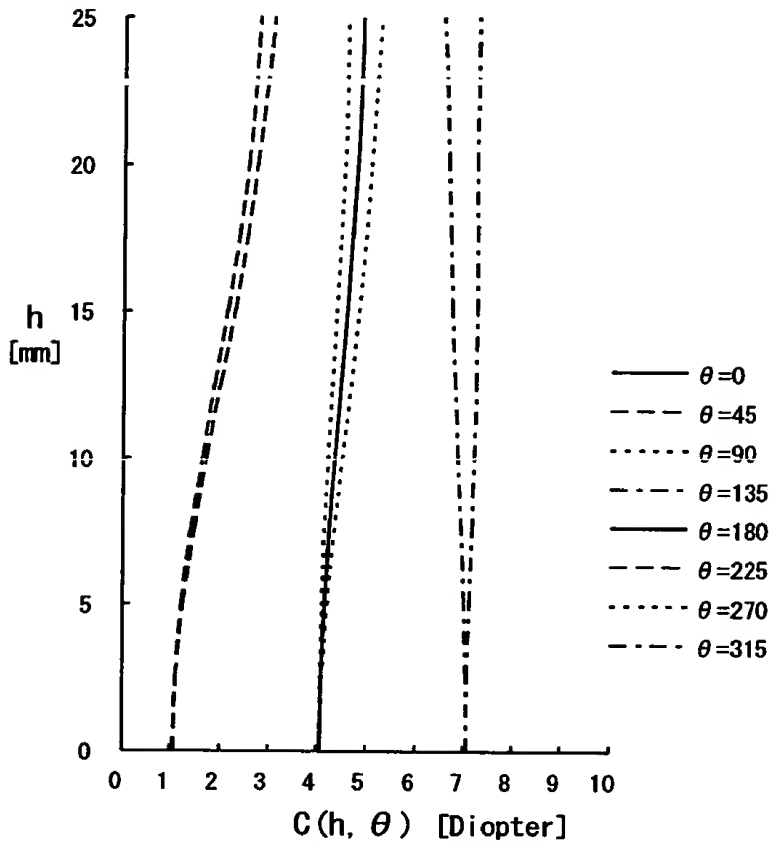
【図 6 2】



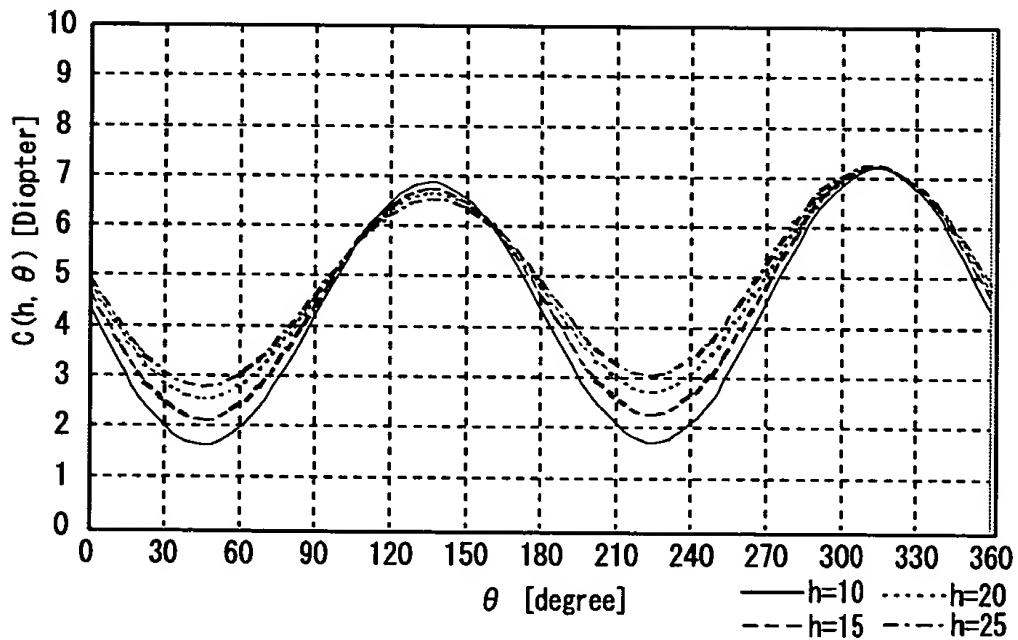
【図 6 3】

		C(h, θ)						
h \ θ	0	45	90	135	180	225	270	315
0.0	4.06	1.06	4.06	7.07	4.06	1.06	4.06	7.07
5.0	4.14	1.21	4.09	7.00	4.14	1.24	4.19	7.11
10.0	4.35	1.62	4.20	6.87	4.35	1.71	4.51	7.21
15.0	4.59	2.12	4.37	6.74	4.59	2.27	4.83	7.25
20.0	4.79	2.55	4.53	6.66	4.79	2.74	5.08	7.25
25.0	4.90	2.79	4.59	6.55	4.90	3.06	5.28	7.27

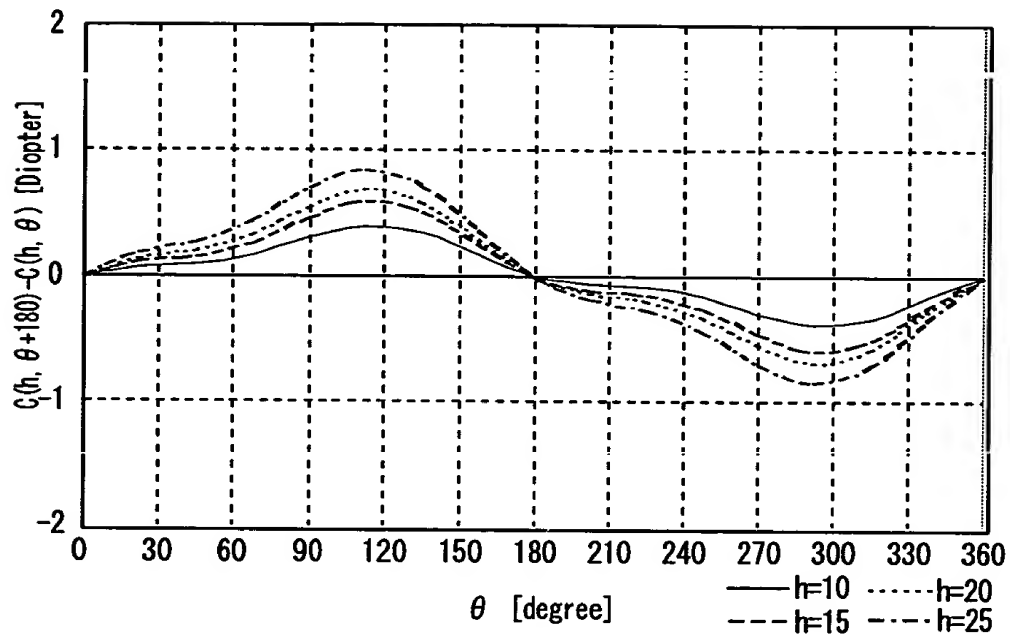
【図64】



【図65】



【図66】



【図67】

